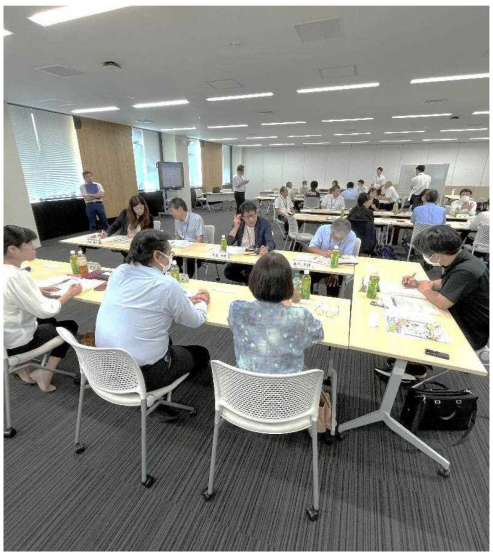
文部科学省委託事業「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」
地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築



令和６年度みやざきの共生社会を目指す生涯学習推進事業

実施報告書

宮崎県教育委員会

目 次

Ⅰ　事業概要

1　文部科学省の事業説明資料　・・・・・・・・　1

2　令和６年度　文部科学省委託事業の概要（国）　・・・・・・・・　13

3　令和６年度　宮崎県の事業概要　・・・・・・・・　15

Ⅱ　体制構築

1　コンソーシアム連携協議会　・・・・・・・・　21

2　市町村公民館講座等担当者会　・・・・・・・・　26

Ⅲ　実践研究

1　公民館等モデル

(1)　都城市教育委員会生涯学習課　・・・・・・・・　29

(2)　延岡市教育委員会社会教育課　・・・・・・・・　30

(3)　日向市教育委員会生涯学習課　・・・・・・・・　32

(4)　宮崎県青島青少年自然の家（学校法人宮崎総合学院）　・・・・・・・・　33

2　大学公開講座

(1)　宮崎県立看護大学　・・・・・・・・　33

3　取組推進校

(1) 宮崎県立清武せいりゅう支援学校　・・・・・・・・　35

(2) 宮崎県立赤江まつばら支援学校　・・・・・・・・　36

Ⅳ　普及啓発・情報提供

1　「ひなたのつどい（共生社会コンファレンス）」　・・・・・・・・　39

2　民間放送局による特別番組・啓発ＣＭの制作放送　・・・・・・・・　49

3　ホームページでの情報提供　・・・・・・・・　53

Ⅴ　読書バリアフリー法に関連する取組

1　公立図書館職員等スキルアップ研修会　・・・・・・・・　55

2　読書サポータースキルアップ講習会　・・・・・・・・　56

Ⅵ　ひなたのつどい 2024（共生社会コンファレンス）の掲示物　・・・・・・・・　57

みやざき
共生社会のまなび

Ⅰ　事業概要

みやざき
共生社会のまなび

１　文部科学省の事業説明資料

障害者の生涯を通じた
多様な学習活動の充実について

文部科学省　総合教育政策局
男女共同参画共生社会学習・安全課
障害者学習支援推進室

「障害者の生涯学習」に取り組むきっかけ①

○2006年（平成18年）国連総会で「障害者権利条約」が採択

↓

条約の批准に向けて、国内法を整備

障害者基本法の改正（H23）

障害者差別解消法の制定（H25）　など

↓

○2014年（平成26年）「障害者権利条約」の批准

2

〇障害者権利条約（抜粋）

第二十四条 教育

1 締約国は、教育についての障害者の権利を認める。締約国は、この権利を差別なしに、かつ、機会の均等を基礎として実現するため、障害者を包容するあらゆる段階の教育制度及び生涯学習を確保する。

（略）

3

「障害者の生涯学習」に取り組むきっかけ②

・・・平成28年10月 当時の文部科学大臣が特別支援学校を視察した際に聞いた保護者からの不安の声

『子供たちは、特別支援学校を卒業した後に、学びや交流の場がなくなってしまう』

4

当時の状況

◇学校卒業後の障害者の状況　※H28学校基本調査より

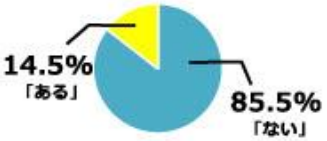
⇒ 90%以上が就職又は障害福祉サービス利用へ進む

◇障害者本人 の意識、ニーズ　※平成30年度 障害者本人への調査より

⇒ 80%以上が学習機会の充実を重要と考えている

◇社会教育施設 等の状況　※平成30年度 社会教育施設等に対する調査より

⇒ 障害者の学習活動の支援に関わった経験が「ある」と回答した公民館等は14.5%しかない



⇒学校卒業後の障害者の多くは社会に出るが、障害者本人に学びの意欲があっても、周囲に学びの機会が不足

5

障害者の生涯学習政策の展開

2017年～（障害者学習支援推進室 開設後）

2017年（H29）　2018　2019　2020　2021　2022　2023　2024

2017年4月「障害者学習支援推進室」設置

2018年「有識者会議」設置
〔報告書〕推進の方向性
推進方策の提案

2020年「人材育成の在り方検討会」設置
〔報告書〕身に着けるべき専門性や役割の整理
人材の育成・活躍を促進するための方策

2018年「実践研究事業」開始
地域における学習プログラム実施体制の整備を開始
2018年　18団体

2019年 共に学び、生きる共生社会コンファレンスの開催
地域の学びの場づくりの充実

2020年 都道府県コンソーシアム構築を追加
都道府県における基盤整備を推進

2021年 地域連携による学習機会創出を追加・改変
市区町村と連携した持続可能なプログラム創出を推進

2022年 大学等による学習機会創出モデル構築を追加
調査研究を踏まえ、大学等での取組を推進
2024年　37団体

2017年「調査研究」開始　障害当事者・地方自治体・社会教育施設の実態把握をはじめ、対象・テーマ設定による調査を実施

2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
都道府県 市町村 特別支援学校	公民館 生涯学習センター 障害者本人家族	図書館 博物館 青少年教育施設等	大学等	重度重複障害 本人家族 生涯学習提供団体	都道府県 市町村 障害者本人家族 ※H29・30年度のFU含む	特別支援学校、 公民館 生涯学習センター等 ※H29・30年度のFU含む

教育振興基本計画　第3期（H30～）第4期（R5～）に「障害者の生涯学習の推進」が明記
障害者基本計画　第4次（H30～）第5次（R5～）に「生涯を通じた多様な学習活動の充実」が明記

6

有識者会議最終報告のポイント

「障害者の生涯学習の推進方策について―誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指して―（報告）」

目指す方向性

- ○ 誰もが、障害の有無にかかわらず**共に学び、生きる共生社会の実現**
- ○ **障害者の主体的な学び**の重視、個性や得意分野を生かした**社会参加の実現**

取り組むべき施策

- ○ 国、地方公共団体、特別支援学校、大学、民間団体などが役割分担し、**多様な学びの場づくり**を推進
- ○ **教育、福祉、労働等の分野の取組と連携の強化**が重要

7

障害者の生涯学習に関する文部科学省の取組

○平成29年度

・「『障害者の生涯学習支援活動』に係る文部科学大臣表彰」開始

※令和6年度は宮崎手話サークル「いもっこ」が被表彰者の代表（表彰状授与・祝辞）

○平成30年度

・「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」開始

○平成31年度

・「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」開始

※宮崎県は令和2年度から継続して開催

○令和2年度

・「実践研究事業」のメニューとして「都道府県コンソーシアム構築」を追加

※宮崎県は令和2年度に都道府県コンソーシアムを構築

8

障害者の生涯学習の推進状況

～調査研究結果からの考察～

文部科学省がこれまで実施した下記の調査から、地方公共団体（都道府県・市区町村）、特別支援学校、社会教育施設（公民館・生涯学習センター等）における障害者の生涯学習の取組の進捗を確認

- **H29年度 障害者の生涯学習活動に関する実態調査**
- **H30年度学校卒業後の障害者が学習活動に参加する際の阻害要因・促進要因等に関する調査研究**
- **R4年度 地方公共団体及び障害者本人を対象とした実態調査**
- **R5年度 生涯学習を通じた共生社会の実現に関する調査研究**

9

地方公共団体（都道府県・市町村）

■行政計画に「障害者の生涯学習」について記載がある

	H29	R4
都道府県	31.4% ↗	95.1%
市区町村	16.0% ↗	59.4%

■障害者の生涯学習活動に関する情報提供をしている

	H29	R4
都道府県	54.3% ↗	84.6%
市区町村	25.5% ↗	64.9%

■学校卒業後の障害者が生涯学習活動として取り組める講座・プログラムについて

実施していない

	H29	R4
都道府県	28.6% ↘	2.4%
市区町村	75.6% ↘	40.9%

都道府県の取組は順調に進捗している…？
市区町村に波及できていない状況も。

10

社会教育施設（公民館・生涯学習センター等）

■障害者への学習支援の経験がある

H30	R5
14.5% ↗	32.8%

■担当者がいる（専任・併任問わず）

H30※1	R5※2
5.6% ↘	3.8%

※1　「いる / いない」の2択
※2　「専任 / 兼任」の回答を合算
【専任0.3% / 兼任3.5%】

■障害者が参加できるプログラムがある

	H30※1	R5※2
障害者を主な対象とした講座等	4.2% ↘	3.3%
一般市民を対象にした講座等へに障害者が参加可能	10.1% ↘	9.0%

※1「学習活動の支援経験がある(14.5%)」のうち「障害者のみを対象とした事業・プログラムの経験あり(10.3%)」と「障害の有無にかかわらず参加可能なプログラムの経験あり(69.3%)」の割合から計算

※2　R5年度調査では、R4年度の実績による回答

コロナの影響が大きいと思われるが、改善に向けた取り組みが必要な状況！

11

教育と福祉の連携に着目　①

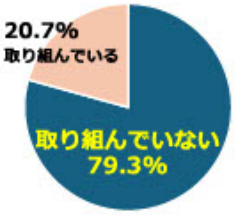
令和4年度　障害者本人を対象とした実態調査

■障害者の生涯学習に関する情報提供の状況

情報提供している（一部提供を含む）	
都道府県	84.6%
市区町村	64.9%

情報を発信する側と受け止める側のギャップ

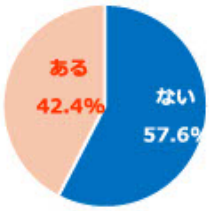
■生涯学習の取組状況（現在）



◆取り組んでいない理由
「どのような学習があるのか知らない」が最も多い**(55.8%)**

効果的に情報を届ける手段は？

■生涯学習に関して相談できる人や機関の有無



◆**具体的な相談先**
家族（59.7%）以外では**「障害福祉サービス事業所や施設の職員」（36.3%）**に相談できる人が多数

日常的に関わる障害福祉サービス事業所や施設の職員に情報を届けることも効果的！

12

教育と福祉の連携に着目 ②

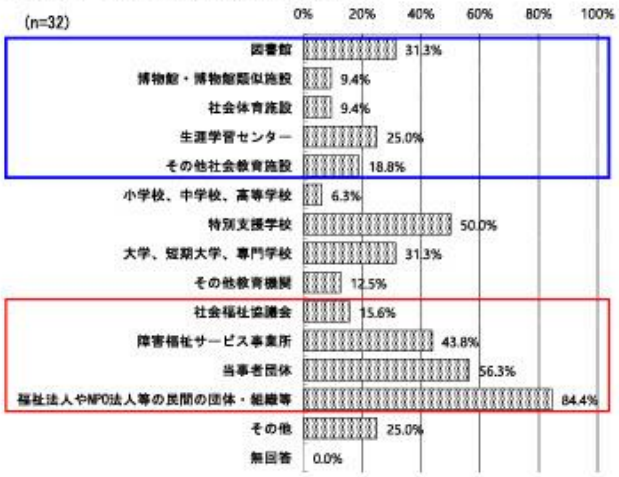
令和4年度 障害者本人を対象とした実態調査

■学校卒業後の障害者が生涯学習活動として取り組める講座・プログラムの実施

実施していない	
都道府県	2.4%
市区町村	40.9%

更なる充実が期待されるが、**合理的配慮**や**受講者集め**への不安の声も・・・

■講座・プログラムの実施主体



福祉法人やNPO等をはじめ、当事者団体・障害福祉サービス事業所等の福祉関係団体が実施主体となることが多い。

講座・プログラムの実施には、福祉関係団体との連携は効果的！

実践例：秋田県（公民館・福祉事業所・特別支援学校が連携した学習プログラムの開発）

13

今後の施策の方向性

◆今後（来年度に向けて）取り組んでいきたいこと

○「教育と福祉の連携」の促進

○都道府県から市区町村、現場まで支援をつなげる仕組み作り

○共生社会の実現に向けて、「共に学ぶ」を大切に

（主体的な学び、教え合う・学び合うの実践）

→委託事業の見直し（情報保障への対応も必要）

14

お知らせ

◆「読書バリアフリー」は、視覚障害や肢体不自由などにより読書に困難のある人の「読書」の機会の充実を図る取組です。公立図書館や学校図書館への普及・啓発を進めています。

◆「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」を１月以降も開催します。オンラインで参加可能なものもありますので、ぜひご参加ください。

◆「文部科学省が進める学校卒業後の障害者の学びの場づくり」というチラシを作成しています。各種資料へのリンクもご活用を！

◆（独）特別支援教育総合研究所からのお知らせもお配ります。「NISE学びラボ」「特別支援教育リーフ」「発達障害ナビポータル」ご活用を！

ご清聴ありがとうございました　15

読書バリアフリー　～誰もが読書をできる社会を目指して～

読書バリアフリーとは？

障害の有無に関わらず、すべての人が読書による文字・活字文化の恩恵を受けられること。

背景・経緯

2018年　「盲人、視覚障害者その他印刷物の判読に障害のある者が発行された著作物を利用する機会を促進するためのマラケシュ条約」（通称：マラケシュ条約）の締結
2019年　「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（通称：読書バリアフリー法）の施行
2020年　「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画」の策定
～ 現在　地方公共団体における計画策定（努力義務）の推進

視覚障害者等とは？

視覚障害者：約27万人
全盲・弱視など

身体障害者：約158万人（肢体不自由）
寝たきりや上肢の障害等の理由により書籍を持つことやページをめくることが困難・眼球使用が困難

学習障害者：約3万人（通級による指導を受けている児童生徒数）
ディスレクシアなどの学習障害等により読字が困難

188万人以上が読書に困難を抱えている

出典：令和4年生活のしづらさなどに関する調査（全国在宅障害児・者等実態調査）
特別支援教育資料（令和4年度）

現状は？

視覚障害者等が利用しやすい書籍等は十分ではない
（視覚障害者向け書籍数は蔵書総数の140分の1程度）

公共図書館における資料の状況
蔵書冊数総計：　448,090,795冊
視覚障害者向け書籍数※：　**3,188,060**冊

※録音図書、点字図書等、大活字本の保有数の合計
出典：令和3年度社会教育統計

視覚障害者等が利用しやすい書籍等（以下「アクセシブルな書籍等」）とは？

点字図書、拡大図書、音訳図書、触る絵本、LLブック、布の絵本、
音声読み上げ対応の電子書籍、デイジー図書、オーディオブック、テキストデータ等

16

できることは？

アクセシブルな書籍等を入手する

みなサーチ（国立国会図書館障害者用資料検索）

全国にあるアクセシブルな書籍等を統合的に検索できるシステム。視覚障害者等用データ送信サービスの送信承認館になると、直接データのダウンロードやストリーミングも可能

みなサーチ

https://mina.ndl.go.jp/

視覚障害者等用データ送信サービス

本サービスの**送信承認館**は、国立国会図書館や公共図書館等が製作した**250万件以上**の視覚障害者等用データ（DAISYデータ、点字データ、テキストデータ等）をダウンロードすることが可能。サービスの利用は**無料**。

送信承認館：345館（全公立・学校図書館の約0.9%）
うち学校図書館：49館
うち特別支援学校図書館：24館
（2024年６月末時点）

うち21館は教育委員会主導で導入

送信承認館の申請はコチラ→ https://www.ndl.go.jp/jp/library/supportvisual/supportvisual-10.html

サピエ図書館

サピエの施設会員になると、サピエが保有する**30万タイトル以上**の録音・点字・電子図書をダウンロードすることが可能。国立国会図書館の視覚障害者等用データも、一部を除いて利用可能。施設会員の年間利用料は４万円。

https://www.sapie.or.jp/sapie_manual.shtml

図書館の読書バリアフリーを進めるために
是非これらのサービスをご活用ください!!

アクセシブルな書籍等を知る・広める

りんごプロジェクト

NPO法人ピープルデザイン研究所が行う、アクセシブルな図書の普及事業。全国各地の学校や図書館等で、出前事業や体験会を実施。図書館における**「りんごの棚」（アクセシブルな図書のコーナー）**設置の普及を目指す。

https://www.mext.go.jp/content/20240618-mxt_kyousei01-000036612_24.pdf

読書バリアフリー啓発用リーフレット

文部科学省HPから、読み上げ対応版、A4サイズ印刷版、テキスト版がダウンロード可能。

https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/mext_01304.html

冊子も配布中です。
ご希望ありましたら、お問い合わせください!!

17

共に学び、生きる共生社会コンファレンス

趣旨

平成２６年の障害者権利条約の批准や平成２８年の障害者差別解消法の施行等も踏まえ、学校卒業後の障害者が生涯を通じて学び続けられる社会、共に学び生きる共生社会の実現に向けて、**障害者の生涯学習の機会を全国的に整備・充実する**ことが急務である。

そこで、令和元年度より**障害者の生涯学習活動の関係者が集う「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」を全国各地で開催**し、障害者本人による学びの成果発表等や、学びの場づくりに関する好事例の共有、障害者の生涯学習活動に関する研究協議等を行う。障害の社会モデルに基づく**障害理解の促進**や、支援者同士の学び合いによる**学びの場の担い手の育成、障害者の学びの場の充実**を目指す。

参加者

○100～200名程度を想定　　○障害者本人、学びの支援者・関係者、障害者の学びに関心のある人など

⇒都道府県・市町村職員（障害者学習支援担当、生涯学習、教育、スポーツ、文化・芸術、福祉、労働等）、社会教育主事、公民館・図書館・博物館職員、特別支援学校等教職員、教職員経験者、障害者の学習支援実践者（NPO等）、大学関係者、福祉サービス事業所職員、社会福祉協議会職員等。

コンファレンス実施内容

ブロック（地域別）コンファレンス

開催地域における、障害者の学びのニーズや実践報告、ワークショップ等を通じて障害者の学びの場の担い手育成と学びの場の充実に資する機会を設定

テーマ型コンファレンス（R6年度～）

コンファレンス全体のテーマ（学びの場の類型、障害種、実施主体等）に沿った実践事例や成果及び課題を共有し、関係者の資質向上と相互交流する機会を設定

コンファレンス（Conference）

会議、協議会
関係者間で共有する問題について協議すること

コンファレンスのアーカイブ動画等（文部科学省HP）

誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会の実現

18

令和６年度「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」　開催概要

	実施団体	期日	開催方法	ブロック（地域）
ブロック（地域）コンファレンス 12箇所13回	北海道教育委員会	12/7(土)	ハイブリッド	北海道
	秋田県教育委員会	12/26（木）	ハイブリッド	東北（秋田県）
	宮城県教育委員会	8/30（金）	対面	東北
	仙台市教育委員会	2/1(土)	対面	東北
	東京都教育委員会	10/25(金) - 27(日)	ハイブリッド	関東・甲信越
	長野県社会福祉協議会	2/21(金)-22(土)	対面	東海・甲信越
	石川県教育委員会	1/31(土)	対面	北陸
	兵庫県教育委員会	10/5（土）	対面	近畿
	社会福祉法人一麦会	①11/27(水) ②12/8(日)	①ハイブリッド ②ハイブリッド	近畿
	愛媛大学	11/9(土)	ハイブリッド	中国・四国
	大分県教育委員会	1/25(土)	ハイブリッド	九州・沖縄（大分県）
	宮崎県	1/18(土)	ハイブリッド	九州・沖縄（宮崎県）

	実施団体	期日・開催地域	開催方法	テーマ
テーマ型コンファレンス 5テーマ	重度障害者・生涯学習ネットワーク	10/26(土) - 27(日) 神奈川県	対面＋α	重度医療的ケア者対象の訪問型生涯学習支援
	NPO法人藤沢市民活動推進機構	1/26(日) 神奈川県	メタバース	障害者がメタバースを活用して得られる効果とはどんなものか
	放送大学学園	1/27(月) 千葉県	ハイブリッド	教育コンテンツを活用した学習プログラムの在り方
	千里金蘭大学	1/12(日) 大阪府	対面	オープンカレッジ・みらい未来 障害者の生涯学習の可能性
	作新学院大学 作新学院大学女子短期大学部	3/1(土) 栃木県	ハイブリッド	障がいのある人たちに対する生涯学習の保障を通した地域共生社会の実現

19

文部科学省が進める

学校卒業後の障害者の学びの場づくり

文部科学省

障害者ご本人の「**もっと学びたい!**」「**仲間が欲しい!**」という思いや、保護者のみなさまの「**学校卒業後も学びを続けてほしい**」「**家庭以外の居場所が欲しい**」といった思いに応えられるよう、文部科学省では、**学校を卒業した障害者が、障害の有無に関わらず学ぶことができる場づくり**を進めています。

以下のように様々なメニューをご用意していますので、ぜひご活用ください！

障害者と地域の交流や学びの場をつくりたい

日中活動や余暇活動の新たなプログラムを検討したい

取り組みたいが誰に相談に乗ってもらえるの？

「障害者の生涯学習」に関する研修を企画したい

学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業（委託事業）

実際に生涯学習プログラムの開発・実施する場合に活用可能

【対象】地方公共団体・民間団体（社会福祉法人、NPO法人ほかボランティア団体等の任意団体含む）・大学等

アドバイザー派遣

生涯学習に関する取組の実施を検討する団体等からの相談に対して、障害者の生涯学習推進に関する様々な知見を有する「障害者の生涯学習推進アドバイザー」を派遣して、助言等をおこないます。

※アドバイザー派遣に係る費用は文部科学省負担

共に学び、生きる共生社会コンファレンス

「障害者の生涯学習」ってどんなもの？

障害者本人による学びの成果や学びの場づくりに関する好事例の共有など、障害者の生涯学習活動に関するコンファレンス

※令和６年度は全国17か所、オンライン併用開催も多数

障害福祉や社会教育・生涯学習・学校教育関係者等でこれから学びの場づくりに取組みたいと考えている方に向けて、事例やQ＆Aなどを盛り込んだ事例集

共生社会のマナビ

障害者の生涯学習支援入門ガイド事例集

やってみたいけど何から始めたらいいの？

体制整備のためのスタートアップメニューもあります

委託事業のメニューでは、先進事例収集や現地視察等を通じて地域の関係機関・団体との連携体制構築準備のためのメニューもあり、アドバイザー派遣と併せて、地域の体制づくりを支援します。

文部科学省　総合教育政策局　男女共同参画共生社会学習・安全課　障害者学習支援推進室

ホームページ：https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/index.htm　E-mail：sst@mext.go.jp

「障害者の生涯学習」とは？

障害者が、学校卒業後も、生涯を通じて教育やスポーツ、文化などの様々な機会に親しみ、豊かな人生を送ることができる、生涯を通じた多様な学習活動のことです。

「生活のための学び」「知識習得のための学び」「体験活動」など、当事者の学習ニーズに合わせた幅広い学習プログラムが展開されています。

表：障害者の生涯学習を支える実践の多様性

公民館等における実践	障害者青年学級など障害者を主な対象とする事業
	一般の学級・講座等への障害者の参加（合理的配慮）
	社会教育関係団体やサークルへの障害者の参加
その他の社会教育施設における実践	博物館における合理的配慮
	図書館における合理的配慮、点字図書等の提供
	障害者スポーツセンターの設置
	体育施設における合理的配慮、アダプテッド・スポーツ普及
学校に関連する実践	特別支援学校等の開放会活動
	大学の公開講座等への障害者の参加（合理的配慮）
	大学等におけるオープンカレッジ、障害者対象の公開講座等
	継続教育を実施する高等教育機関における障害者の受入
社会福祉に関連する実践	障害者支援事業所における文化芸術活動、スポーツ活動、学習活動
	自立生活センター等における自立生活プログラム
	学習活動の参加に不可欠な障害者福祉サービスの提供
	社会福祉協議会の福祉教育活動等
就労支援に関連する実践	就労支援施設における作業としてのアート活動
	一般就労をする障害者の生きがいづくりのプログラム
その他の実践	親の会や家族会などによる学習活動
	障害当事者グループの学習活動
	NPOなどによる文化芸術活動、スポーツ活動、学習活動
	営利事業としての障害者対象の教室等
	民間の学習機会への障害者の参加（合理的配慮）
	医療機関における学習活動、学習支援活動

※神戸大学・津田英二教授 による整理「障害者の生涯学習支援推進の考え方」（『社会教育』2018年12月号）から

学習プログラムの一例

夕刻のたまり場
（社会福祉法人一麦会）

オンライン読書会
（NPO法人エイブル・アート・ジャパン）

音楽で遊ぼう
（秋田県大館市）

部活動で仲間づくり
（こうべ市民福祉振興協会）

大学生と共に学ぶ
（相模女子大学・相模原市）

アートアカデミー
（北海道岩見沢市）

【参考資料】ご活用ください

共に学び　ひろがる世界
～障害者×生涯学習～

障害者の学びの実践紹介動画
共に学び　ひろがる世界
～障害者×生涯学習～

障害者の生涯学習啓発リーフレット【わかりやすい版】
だれでもいつでも学べる社会へ

～重度重複障害者の生涯学習～
だれでも参加できる生涯学習の機会を作りませんか？

都道府県・指定都市の障害者学習支援担当窓口
（文部科学省HP）

文部科学省　総合教育政策局　男女共同参画共生社会学習・安全課　障害者学習支援推進室

幅広い教員の資質向上に関する支援

インターネットによる講義配信 NISE 学びラボ ～ 特別支援教育eラーニング ～

NISE

インターネットによる講義配信　NISE学びラボ　～特別支援教育eラーニング～

障害のある児童生徒等の教育に携わる教職員の資質向上を図る主体的な取組を支援するため、インターネットによる講義配信「NISE学びラボ」特別支援教育eラーニングを行っています。

NISE 学びラボの登録はこちらから

講義コンテンツ分類
① 特別支援教育全般
② 障害種別の専門性
③ 通常の学級における学びの困難さに応じた指導

団体登録により研修プログラムが設定できます！

教育委員会等の機関が主催する研修等で、受講者のニーズに合わせて複数の講義コンテンツを組み合わせた研修プログラムが設定できます。修了者には視聴証明書を発行します。

スライド及びテキストの内容はPDF形式でダウンロードできる。

映像講義のイメージ

No.	研修プログラム
1	**インクルーシブ教育システムについて学ぶ**
2	特別支援教育コーディネーターになったら
3	特別支援学級（知的障害）の担任になったら
4	特別支援学級（自閉症・情緒障害）の担任になったら
5	特別支援学校の教師になったら
6	通級による指導の担当者になったら
7	小学校・中学校等の管理職になったら
8	すべての教職員を対象に：本人・保護者に寄り添った指導・支援のために
9	幼児期における特別支援教育
10	高等学校段階における特別支援教育
11	これから教師になる人たちのために

2024年３月に研修の手引きを発行

特別支援教育リーフの作成、刊行

ホームページよりダウンロードできます。

幼稚園等、小・中学校、高等学校等で特別支援教育の指導の経験のない又は経験年数の少ない教員に対する特別支援教育の理解啓発・普及を目的としたリーフレットを作成。(現在、20号まで刊行済み)

①「Basic(基礎編)」シリーズ
- Vol.1 ここからはじめてみよう、特別支援学級
- Vol.5 このように考えよう、合理的配慮
- Vol.7 みんなの思いを言葉にしよう！つなげよう！
  ～個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成と活用～
- Vol.11「交流及び共同学習」の授業づくり
- Vol.13 障害のある子供へのキャリア教育
- Vol.18「自立活動」をプラスして、子供のできた！わかった！を増やしていこう
- Vol.20 知的障害のある児童生徒の学びを支える各教科について

②「Case Studies(事例編)」シリーズ
- Vol.8 聞こえにくさのある子供の理解と支援
- Vol.9 感情をコントロールすることが苦手な子供の理解と支援
- Vol.10 人前で話すことが苦手な子供の理解と支援
- Vol.12 急な予定の変更に対応することが苦手な子供の理解と支援
- Vol.15 見えにくさのある子供の理解と支援
- Vol.16 子どもの話す「ことば」が気になる先生へ
- Vol.17 よく忘れ物をしてしまう子供の理解と支援
- Vol.19 板書を書き写すことが苦手な子供の理解と支援

③「Advance(発展編)」シリーズ
- Vol.2 障害のある子供も共に楽しむ体育の授業
- Vol.3 学習や生活を豊かにするICT
- Vol.4 多様性の理解につながる『障害理解』
- Vol.6 活用してみよう、「 センター的機能 」
- Vol.14 キャリア・パスポートを作成と活用

発達障害ナビポータルの運用

- 国が提供する発達障害に特化したポータルサイトです。
- 発達障害に関する信頼のおける情報を提供します。

共同運営
- 厚労省
- 国立障害者リハビリテーションセンター
- 文部科学省
- 国立特別支援教育総合研究所

学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業

令和6年度予算額　1.36億円
（前年度予算額　1.41億円）

文部科学省

現状・課題

・障害当事者にとって、生涯学習機会が少ない。どのような学習があるか知らない。
・自治体における障害者の生涯学習活動のため持続可能な体制が整っていない。
・障害/障害者の学びに関する理解を深めていくことが必要。
・「合理的配慮」の義務化（改正差別解消法）、「情報保障」の確保の法制化（情コミュ法・読書バリアフリー法）

「障害者の生涯学習活動に関する実態調査～地方公共団体及び障害者本人を対象とした実態調査～」（令和4年度）

① 障害当事者の声（アンケート調査）
・生涯学習機会が「十分にある」・「ある程度ある」 38.2%*
・現在生涯学習に取り組んでいる 20.7%
・生涯学習に取り組んでいない理由：どのような学習があるのか、知らない 55.8%
＊参考：平成30年度調査：「とてもある」「ある」 34.3%

② 自治体への調査
障害者の生涯学習に関するコーディネーターがいる。*
都道府県 46.3%
市区町村 16.1%
＊参考：平成29年度調査
都道府県 2.9% 市区町村 4.2%

事業内容

現状分析・課題整理

1．生涯学習を通じた　共生社会の実現に関する調査研究　３百万円（３百万円）

テーマ別の調査研究を実施し、障害者の生涯学習に関する現状分析、課題整理を行う。
例：地方公共団体及び障害者本人を対象とした実態調査（R4）、重度重複障害児者等の生涯学習に関する実態調査（R3）など

実践研究

2．地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究　108百万円（116百万円）

課題解決に資する実践研究を実施。都道府県レベルの持続的な体制整備、市区町村と民間団体等との連携及び大学等による多様なプログラムの開発・実証を支援し、好事例やノウハウを蓄積する。

持続的な体制整備

(1)地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築
・都道府県（指定都市）におけるコンソーシアム形成。都道府県（指定都市）が中心となり、大学や特別支援学校、社会福祉法人、地元企業等が連携構築
単価：620万円/件　件数：10箇所　対象：都道府県、指定都市

合理的配慮/情報保障による学習プログラムの実証も実施

生涯学習プログラムの開発・実施

(2)地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進
・市区町村と民間団体等の連携による多様な学習プログラムの開発・実施
・重度重複障害者向けの訪問型学習プログラムも対象
単価：130万円/件　件数：30箇所　対象：市区町村、民間団体等

(3)大学・専門学校における生涯学習機会創出・運営体制のモデル構築
・大学等における専門性を活用した学習プログラムの研究・開発
・学生の参画による、若年層への障害理解を推進するプログラムの実施
単価：150万円/件　件数：6箇所　対象：大学、専門学校

普及・啓発

新たな課題とテーマの発掘

3．普及・啓発活動の強化　24百万円（22百万円）

障害者の生涯学習活動を拡げるため、1.の調査結果や2.の実践研究の成果を発信/水平・垂直展開するコンファレンス等を実施するとともに、アドバイザーの派遣を行う。

(1)障害者参加型フォーラム
障害の有無にかかわらず、共に学び、生きる共生社会の実現に向け、障害当事者・関係者等の参画を得て、障害者の学びに関係するテーマ（先進的な学習プログラムやICTを活用した学び、読書バリアフリーなど情報保障等）にて対話を行うフォーラムを開催する。

(2)共生社会コンファレンス
障害者の学びの場の充実を目指し、障害者本人による学びの成果発表等や学びの場づくりに関する好事例の共有、障害者の生涯学習活動に関する研究協議を行う「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」を全国各地域ブロックで開催。来年度より、障害種別や実施主体別等のテーマ型コンファレンスも開催。

(3)アドバイザー派遣
全国における障害者の生涯学習の活動を支援するため、新たに取組を実施・検討しようとする団体等に対して、要請に応じて、障害者の生涯学習推進に関する様々な知見を有する人材をアドバイザーとして現地派遣等を行う。

ゴール　「誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会」を実現する。

担当：男女共同参画共生社会学習・安全課

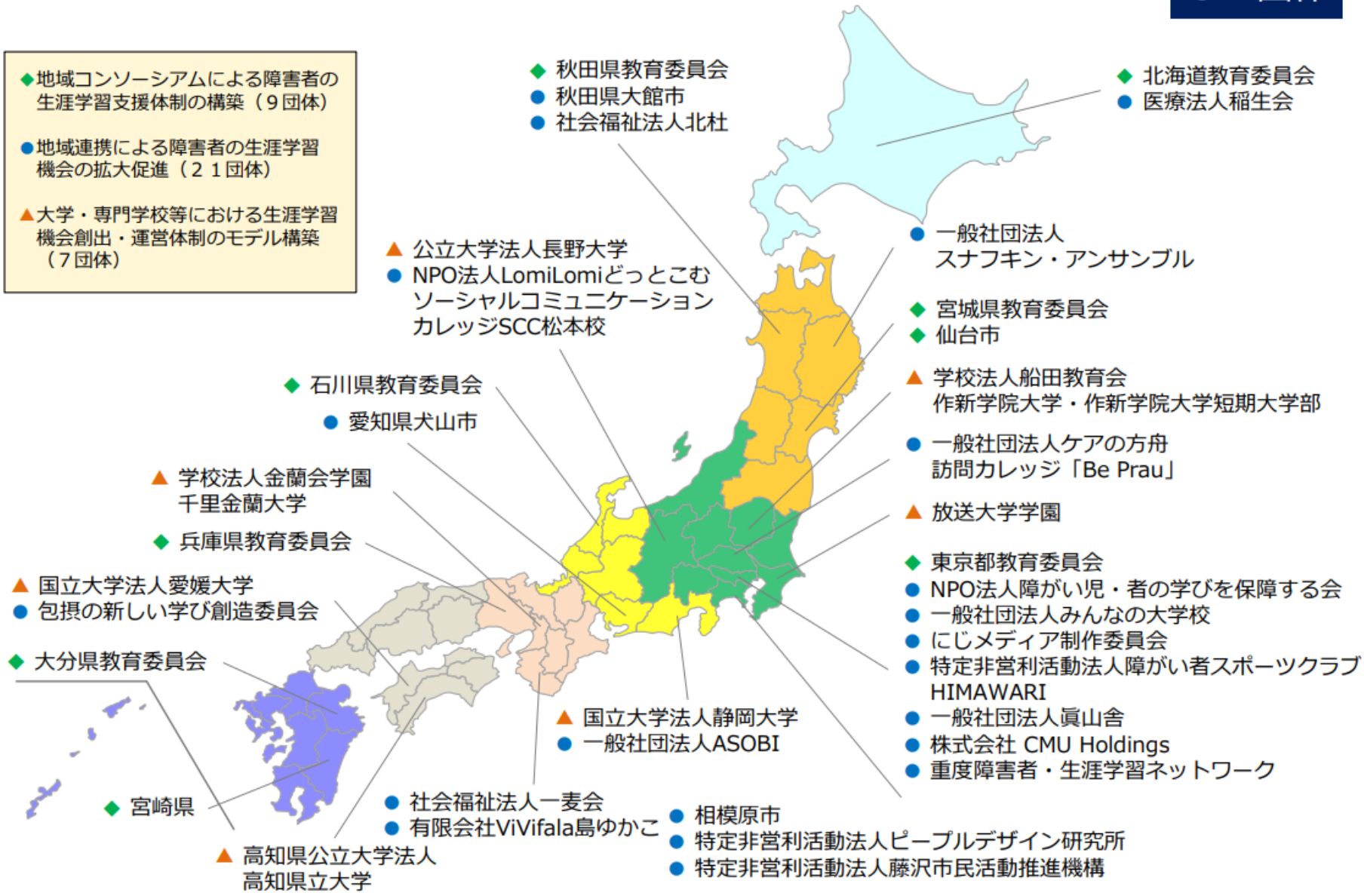
令和６年度「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」

３７団体

◆地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築（９団体）

●地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進（２１団体）

▲大学・専門学校等における生涯学習機会創出・運営体制のモデル構築（７団体）



3 令和６年度 宮崎の事業概要

令和6年度みやざきの共生社会を目指す生涯学習推進事業

1 事業のねらい

学校卒業後の障がいのある人の生涯にわたる学びの充実を通して、本県における「誰もが、共に学び、生きる共生社会の実現」を図るため、コンソーシアムの構築、実践研究、普及啓発・情報発信等に取り組む。

2 文部科学省事業の活用

令和６年度　学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業
２．地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究（委託事業）
（1） 地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築

本県は令和２年度より受託している。全額が国費で、単年度で契約している事業である。
契約は６月で、事業は６月から２月までの期間に実施し、３月上旬に実績･収支報告を提出する必要がある。

＜参考＞　受託事業のスケジュール

３月　企画提案書の提出	６月　文部科学省との契約締結
４月　内定通知、採択通知（条件付）の受理	再委託先との契約締結
・ 審査委員からの指摘事項への対応	コンソーシアム連携協議会委員の依頼
・ 再委託先への事業説明	７月～２月　事業実施・再委託先への協力
５月　実施計画書の提出	２月 10 日　再委託先の報告書締切（県で設定）
・ 再委託先の実施計画・根拠資料も提出	３月 10 日　実施報告書の提出締切（文科省必着）

3 令和6年度の取組

（1） コンソーシアムの形成

【コンソーシアム連携協議会】

① コンソーシアム連携協議会の設置

コンソーシアム連携協議会を設置し、特別支援学校、大学、社会教育、社会福祉、障がい当事者団体・支援団体、企業、行政職員など 24 名に、委員を委嘱した。

② 協議会の実施

宮崎県庁防災庁舎や宮崎県立特別支援学校、宮崎県立聴覚障害者センターを会場に、各地区の事業や特別番組、共生社会コンファレンス等について協議した。

回	期　日	会　場	内　容
第１回	７月 18 日(木)	県庁防災庁舎	計画説明、各地区の事業（公民館等モデル等)、特別番組・啓発ＣＭの展開方策
第２回	８月 23 日(金)	県立清武せいりゅう支援学校	（学校説明、校内の見学） 各地区の事業、コンファレンスの展開方策
第３回	10 月 30 日(水)	県立聴覚障害者センター	(市町村公民館講座等担当者会と兼ねて開催) 合理的配慮や情報保障について
第４回	２月 ５日(水)	県庁防災庁舎	コンファレンスの振り返り、今年度事業のまとめ、次年度の事業展開と方策

【市町村公民館講座等担当者会】

第３回コンソーシアム連携協議会と兼ねて、県立視覚障害者センターを会場に 10 月 30 日(水)に開催した。文部科学省「障害者の生涯学習推進アドバイザー」神戸大学大学院教授 津田 英二氏による講義と、県障がい福祉課等による合理的配慮や情報保障の説明、コンソーシアム連携協議会委員も交えた協議を実施した。コンソーシアム連携協議会委員を含め 36 名が参加した。

⑵　実践研究

【公民館等モデル】

○　都城市生涯学習課・・・　南部地区のコンソーシアム連携協議会委員や高城地区ボランティアネットワークなどと協働して、高城地区で「防災体験教室」を開催。その他に、フラワーアレンジメントや「書」を生かした作品作り等の講座を実施した。

○　延岡市社会教育課・・・　第１～３回「かねのね」社会教育講座で、いずれも延岡しろやま支援学校を会場に、スノードーム、木工、アロマスプレー作りなど当事者のニーズに応じた複数の講座を実施した。

○　日向市生涯学習課・・・　今年度、初めて本事業に参加した。第１・２回「いろいろ」公民館講座で、中央公民館を会場に、革製製品作りやズンバなど４講座を実施した。

○　宮崎県青島青少年自然の家・・・　主催事業「ひなたこどもフェスティバル」で、手話体験コーナーを宮崎市聴覚障害者協会と宮崎手話サークルが協働して運営した。

【大学公開講座】

○　県立看護大学・・・　「一緒にやってみよう！in 看護大」という名称で、学生と年齢と近い障がい当事者が一緒に企画運営して、複数講座を実施した。

【特別支援学校取組推進校】

○　県立清武せいりゅう支援学校・・・　コンソーシアム連携協議会委員の所属する障害者自立応援センターYAH！DO みやざきと協働し、ボランティアを活用した授業を実施した。

○　県立赤江まつばら支援学校・・・・　一般企業で働きながら障がい者スポーツに取り組む障がい当事者が講師となった講話を実施した。

⑶　普及啓発・情報提供

①　コンファレンスの実施

令和６年度九州沖縄ブロック・共に学び生きる共生社会コンファレンス「ひなたのつどい 2024～誰もが学びに出会えるために～」を、令和７年１月 16 日（土）に、アクセスしやすい宮崎駅前の KITEN ビル８階コンベンションホールを会場に、オンライン配信も併用したハイブリッドで開催した。午前に映画「ぼくが生きてる、ふたつの世界」無料鑑賞会を実施し、午後のコンファレンスで、その映画に出演した聾の俳優、忍足亜希子氏による講話、実践発表、シンポジウムなどを実施した。

②　メディアを活用した広報業務

特別番組は、12 月 15 日(日)に放送した。啓発 CM は、障がい者週間に合わせて、11 月 30 日から 12 月 14 日までの期間に放送した。放送後は、YouTube の県教育委員会「教育ネットひむかチャンネル」でアーカイブ配信している。

③　その他

みやざき学び応援ネットでの情報提供

http://www.sun.pref.miyazaki.lg.jp/symbiotic_society_index.html

⑷　読書バリアフリー法に関する取組

○　公共図書館職員等スキルアップ研修会

県立図書館が宮崎県公共図書館連絡協議会の研修として、公共図書館職員や学校図書館職員等を対象に、講師に調布市立図書館の返田玲子氏を招き、読書バリアフリーに関する障がい者サービス研修会を実施した。視覚障害者センター職員によるカウンター対応の実践研修も行った。

○　読書サポータースキルアップ講習会

学校で読み聞かせを行う方や図書館ボランティア等を対象に、延岡市社会教育センターにて、講師に、ＪＰＩＣ読書アドバイザーの安富ゆかり氏を招き、読書バリアフリーに関する内容を含む講習会を実施した。

〈コンソーシアム連携協議会〉

〈市町村公民館講座等担当者会〉

〈都城市生涯学習課の講座〉

〈延岡市社会教育課の講座〉

〈日向市生涯学習課の講座〉

〈青島青少年自然の家〉

〈県立看護大学の講座〉

〈ひなたのつどい 2024〉

〈特別番組「つながる」〉

4 成果

(1) コンソーシアムの構築

○ 中部地区、南部地区、北部地区の３つに分かれて、それぞれの地域において障がいのある方々の生涯学習推進について、事業展開や方策を検討することができた。

○ 特別支援学校や県立聴覚障害者センターを会場に開催したことで、特別支援学校の理解や県立聴覚障害者センターとの接点を作ることができた。

○ 市町村公民館講座等担当者会は、市町村の公民館講座担当者や県の社会教育施設の担当者が参加し、文部科学省担当者による本事業の説明や、合理的配慮や情報保障について研修できた。

○ コンソーシアム連携協議会に参加する市職員が、県委託ではなく、市独自の講座を試験的に実施し、次年度の本実施に向けた準備に繋がった。

(2) 実践研究

○ 公民館や社会教育施設でのモデル事業として、新たに日向市生涯学習課を加え、３市１社会教育施設へ委託した。企画段階から障がい当事者や支援団体等が参画した講座・イベントを実施することで、企画や運営、広報の在り方について研究を深めることができた。

○ 大学公開講座は、学生と年齢の近い障がい当事者が一緒に企画運営を行うことで、障がいのある方に寄り添った講座となり、参加者の満足度も非常に高かった。

○ 取組推進校として、特別支援学校２校が、当事者団体や当事者との協働で、在学中に生涯学習を体験する取組を実施して、生徒の生涯学習に対するイメージ作りを行うことができた。

⑶　普及啓発・情報提供

○　今年度の「ひなたのつどい 2024(共生社会コンファレンス)」は、映画から講演という流れに魅力を感じた一般の方や聴覚障がいのある当事者などの参加があった。会場は定員 120 名を超えていた。オンラインを含め 160 名が参加した。

○　車椅子を使用するアナウンサーがナビゲートとした特別番組では、県立看護大学や都城市、視覚障がい当事者のコーラスグループの様子、そして、障がい当事者が民間企業で働きながら、仕事後に生涯学習・スポーツを楽しむ姿などを紹介できた。

○　県内で障がい者の生涯学習に取り組む団体の情報を生かして、県内の手話サークル等を「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰に推薦することができた。県から推薦した手話サークル団体が、全国の表彰団体を代表して、証書授与と手話を交えた代表者挨拶を行った。

⑷　読書バリアフリー法に関する取組

○　公共図書館職員等スキルアップ研修会

当事者の方の意見を直接伺うことで、聞く前とは意識が変わったなどの前向きな感想が多かった。受講者は 55 名であった。

○　読書サポータースキルアップ講習会

県北地区で開催したが、県内各地から参加していることから、読書バリアフリーに関する興味や関心の高さが伺えた。受講者は 37 名であった。

5 課題

⑴　体制構築

○　コンソーシアム連携協議会は、委員それぞれの都合などにより、全員が揃うことが無かった。

○　市町村公民館講座等担当者会の参加者は、コンソーシアム連携協議会委員を含めて 36 名だった。すべての市町村からの参加が無かったので、市町村生涯学習・社会教育関係課担当者会等で、本事業の意義や連携体制作り、講話内容などを事前にしっかりと伝える必要がある。

⑵　実践研究

○　市町村や社会教育施設、大学へ委託した事業において、各地区の連携協議会委員が協働した取組があったが、コンソーシアム連携協議会委員の協働までに至らなかった取組もあった。

○　特別支援学校取組推進校は、特別支援教育課との協議で学校に依頼できた。文部科学省との採択通知後に依頼することになり、学校側からすると早めに依頼して欲しいという要望があった。

⑶　普及啓発・情報提供

○　「ひなたのつどい（共生社会コンファレンス)」には、一般の参加者や障がい当事者などもあり、「共生社会」という言葉を知らない参加者もいた。引き続き、「いつでも、どこでも、誰でも」という生涯学習の考えや、障がいの有無にかかわらず、誰もが学ぶ機会を作る意義を伝える機会とする。

○　特別番組は、アーカイブ動画の詳細にアンケートＵＲＬを掲載したが、視聴した感想や意見をアンケートで集めることが難しかった。番組最後にアンケートの二次元コードを掲載したテロップを加えるなどの工夫が必要だと思われる。

⑷　読書バリアフリー法に関する取組

○　読書サポーター養成研修会は、県南地区で実施するために、講師の選定や会場の確保を早めに行い、周知を計画的に行うことが必要である。

6 令和7年度の事業実施に向けた共通理解

⑴ 本事業が目指す姿は「誰もが、共に学び、生きる共生社会」の実現である。「学校卒業後の障がい者の生涯学習の充実」という視点から共生社会を目指すものであるが、学びの機会が開かれたものになっているかを問い直す必要があり、「いつでも、どこでも、誰でも」という生涯学習の理念も伝える。

⑵ 本事業は、令和２年度からの委託事業である。これまでの５年間で、「共生社会の実現」に向けて、多様な視点で協議を行ってきた。令和６年度は、公民館や社会教育施設でのモデル、大学公開講座にて、企画運営に障がい当事者が参画した取組を実施できた。令和７年度もこの流れを継承して、具体的には、公民館、社会教育施設、大学等で実施している既存講座に障がいのある方も一緒に参加できるような方策を検討していきたい。そのために、コンソーシアム連携協議会の委員には、所属先だけではなく、広く障がい当事者の意見が反映できるような人員の選考を行う。コンファレンスは、一般市民に共生社会に関する取組を理解してもらう機会として、開催場所やプログラム、体験コーナー（読書バリアフリー等）などを検討する。

7 令和7年度の取組

⑴ 体制構築

① コンソーシアム連携協議会の開催

協議会委員の連携を図り、市町村公民館や県社会教育施設で実施している既存の講座のバリアフリー化等を検討し、障がいの有無に関わらず誰もが参加できる講座の在り方を協議するなど、特別支援学校などを会場に、会議を年４回開催する。（コーディネート役、実施主体者、支援者、障がい当事者）

② 市町村公民館講座等担当者研修会

文部科学省アドバイザーによる講話や合理的配慮の説明、県内で先進的に実施している取組の紹介などにより、県内の公民館担当職員や社会教育施設担当者等が研修する場とする。

⑵ 実践研究

① 公民館等モデル

公民館講座を実施する自治体、県の社会教育施設（指定管理）との再委託する。
既存の講座において、共生社会を目指す実践を依頼する。

② 大学における公開講座の実施

県内大学１校に委託し、障がいのある方も一緒に受講できる公開講座を実施する。

③ 特別支援学校における研究（２校を指定）

卒業後の生涯学習のイメージづくりや、意欲向上に向けた授業を実施する。

⑶ 普及啓発・情報提供

① コンファレンスの開催

関係者だけでなく、一般県民へ広く周知することをねらい、アクセスしやすい会場や一般の方が興味を持って参加したくなるプログラムの構成、読書バリアフリーなど実際に手にして体験できるコーナー、県内の取組を紹介する展示などを検討する。

② 特別番組・啓発ＣＭの制作放送

民間放送局が制作放送する特別番組・啓発ＣＭで、広く「共生社会」の視点を周知する。

③ 県内で行われている障がい者の生涯学習活動に係る取組について、情報収集と集約を行う。

⑷ 読書バリアフリー法に関する取組

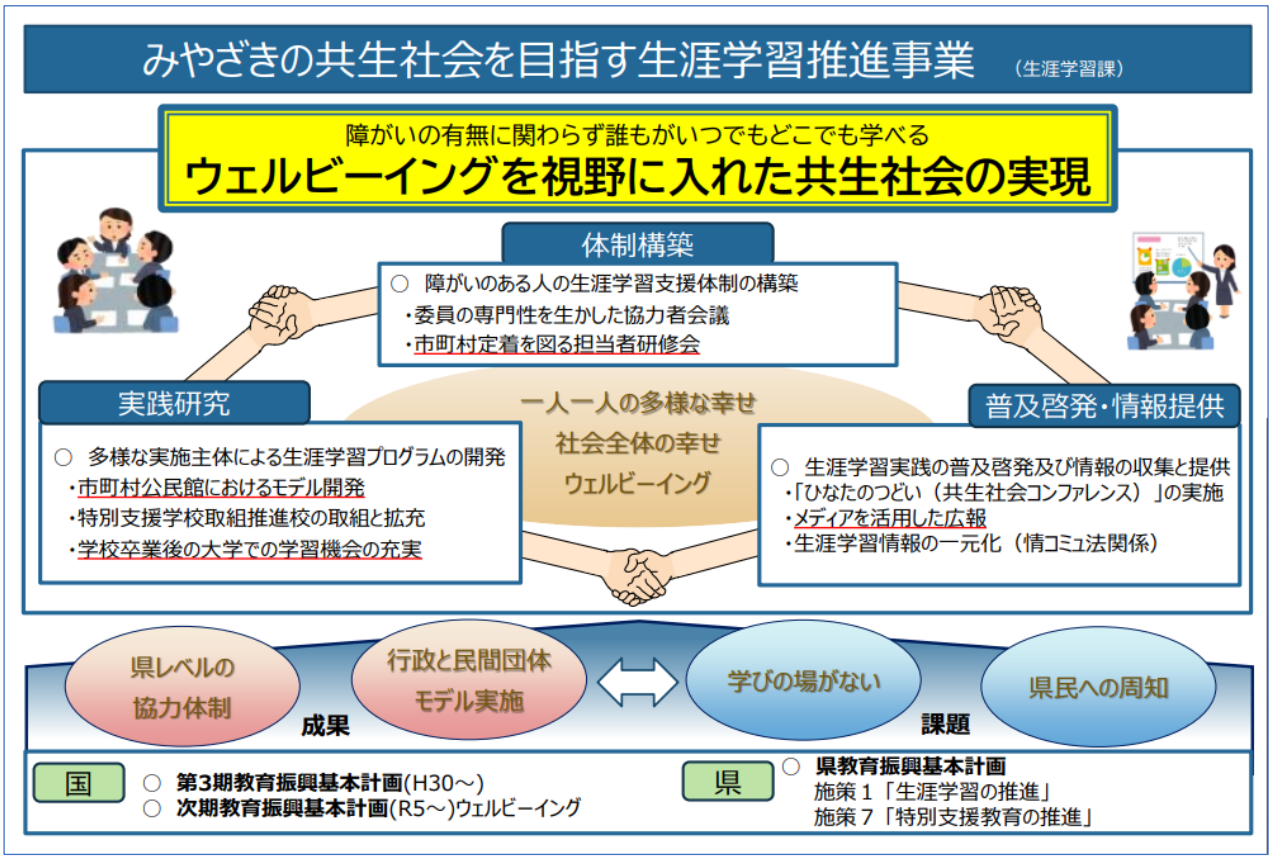
① 公共図書館職員等スキルアップ研修会（県立図書館が実施）

県立図書館が宮崎県公共図書館連絡協議会の研修として、公共図書館職員や学校図書館職員等を対象に、読書バリアフリーに関する障がい者サービス研修会を実施する。

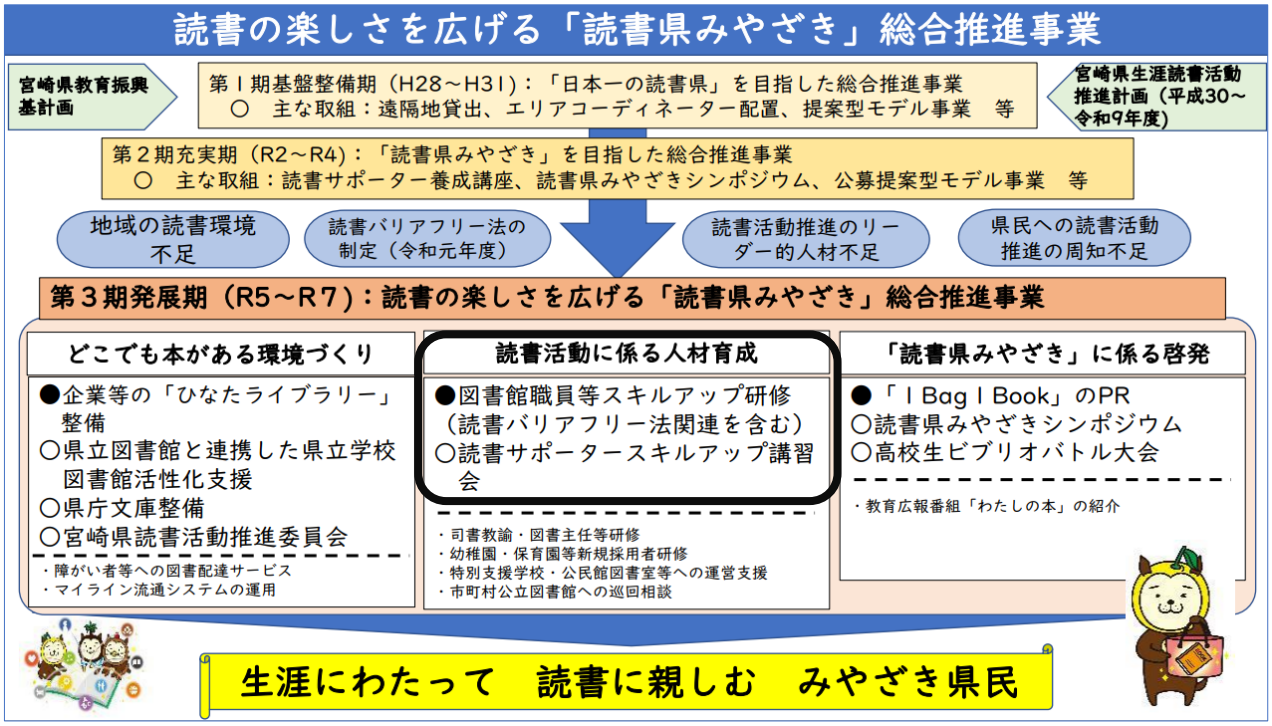
② 読書サポータースキルアップ講習会

学校で読み聞かせを行う方や図書館ボランティア等を対象に、読書バリアフリーに関する講習会を県南地区で実施する。

令和４年度～令和７年度　みやざきの共生社会を目指す生涯学習推進事業



令和４年度～令和７年度　読書の楽しさを広げる「読書県みやざき」総合推進事業



Ⅱ　体制構築

みやざき
共生社会のまなび

1　コンソーシアム連携協議会

1　コンソーシアム連携協議会の設置

令和６年度「共生社会の実現に向けたコンソーシアム連携協議会」を設置し、学校関係、社会福祉、当事者団体、市町村行政関係者など 24 名に、委員を委嘱した。事務局は、県生涯学習課、特別支援教育課が担った。

no	所　　属	職	氏　名	地区
1	宮崎県立清武せいりゅう支援学校（校長会代表）	校長	堀　克	中
2	宮崎県立都城きりしま支援学校（教務主任）	主幹教諭	黒木　光博	南
3	宮崎県立延岡しろやま支援学校(進路指導主事)	教諭	森永　晃	北
4	宮崎県立看護大学看護研究･研修センター（センター長）	教授	川原　瑞代	中
5	南九州大学人間発達学部子ども教育学科（学科長）	教授	若宮　邦彦	南
6	九州医療科学大学臨床心理学部臨床心理学科	講師	戸髙　翼	北
7	学校法人宮崎総合学院 宮崎福祉医療カレッジ社会福祉士学科	教諭	保田　浩美	中
8	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会	地域ボランティア課長	髙橋　申尚	南
9	宮崎県障害児・者そうだんサポートセンターはまゆう	相談支援専門員	塩見　享之	北
10	ひゅうが障害者就業・生活支援センター	所長	（黒岩　啓輔） 小泉　美喜	北
11	宮崎県立特別支援学校 PTA 連絡協議会	監事	原田　瞳	中
12	宮崎県青島青少年自然の家	指導員	谷口　祐貴	中
13	旭化成アビリティ延岡営業所 オフィスサービス課	課長	木村　進二	北
14	特定非営利活動法人 障害者自立応援センターYAH！DO みやざき	副理事長	山之内　俊夫	中
15	宮崎市聴覚障害者協会	会長	堀口　靖之	中
16	子どもと家族・関係者の集まり ポン太クラブ	会長	外山　明美	南
17	都城市障害者自立支援協議会	会長	川口　貴博	南
18	特定非営利活動法人　宮崎県精神福祉連合会	理事長	栄畑　貴志	南
19	宮崎市教育委員会生涯学習課	主任主事 主査	（大野 路子） 長谷 ルミ	中
20	都城市教育委員会生涯学習課	主幹	上原　里奈	南
21	延岡市教育委員会社会教育課	指導主事	飯野　小巻	北
22	日向市教育委員会生涯学習課	主任主事	長友　俊介	北
23	小林市教育委員会社会教育課（小林中央公民館長）	主幹	髙妻　司	南
24	県福祉保健部障がい福祉課	主幹	飽田　智洋	北

(1)　第１回コンソーシアム連携協議会にて、座長１名、副座長１名、地区代表３名を選出した。全体会は座長（副座長）を中心に、協議は地区代表を中心に県内３地区に委員を分けて進行した。

(2)　今年度から、新たに聴覚障がいのある委員が加わったので、手話通訳による情報保障を行った。

(3)　年度途中に、所属先の都合などにより、２名の委員が交代した。

No.10　日向障がい者就労・生活支援センター　所長 黒岩 啓輔 氏　→　所長 小泉 美喜 氏

No.19　宮崎市教育委員会生涯学習課　主任主事 大野 路子 氏　→　主査 長谷 ルミ 氏

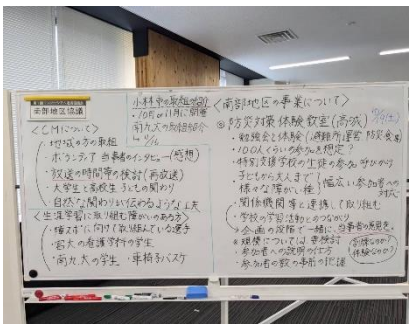
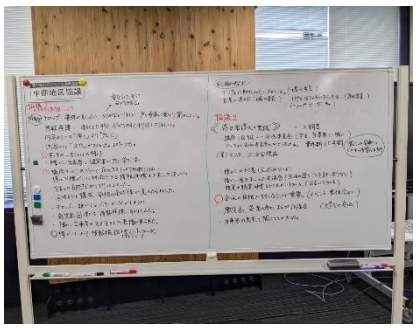
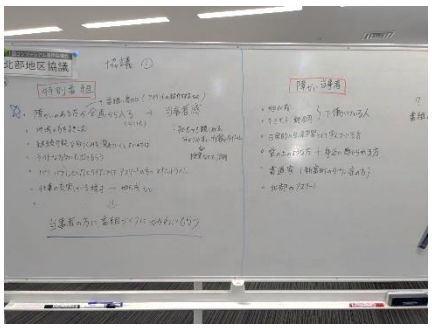
2　コンソーシアム連携協議会の開催実績

回	期　日	会　場	内　容	人数
第１回	７月 18 日(木)	宮崎県庁防災庁舎	本年度の事業説明 各地区の事業計画（公民館等モデル等） 特別番組・啓発ＣＭの展開方策	21 名
第２回	８月 23 日(金)	宮崎県立清武せいりゅう支援学校	（学校説明・校内の見学） 各地区の事業の進捗状況 共生社会コンファレンスの展開方策	18 名
第３回	10 月 30 日(水)	宮崎県立聴覚障害者センター	（市町村公民館等担当者会と兼ねて開催） 合理的配慮や情報保障について 既存の講座の工夫について	19 名
第４回	２月　５日(水)	宮崎県庁防災庁舎	今年度の事業の振り返り 次年度の事業展開と方策	21 名

県内における講座・プログラム、特別番組・啓発ＣＭ、共生社会コンファレンスの展開方策に向けて、学校関係、社会福祉、当事者団体、市町村行政等の関係者によるコンソーシアムを形成した。会場は、障がいや障がい者理解と、関係機関との連携体制作りのために、県庁防災庁舎だけでなく、特別支援学校（肢体不自由）、県立聴覚障害者センターも利用して開催した。

3　協議の内容

第１回

協議１　特別番組・啓発ＣＭについて(内容や取り上げる人物など)

○　障がいのある方が番組に登場するだけではなく、企画に関わってもらうのはどうか。
○　子供や高校生、大学生の関わりも加えたらどうか。
○　当事者やボランティアのインタビューを加えてみてはどうか。
○　文字テロップなど情報保障は、昨年度よりも進化した形でわかりやすく制作してほしい。
○　旭化成アビリティで働いている方を取り上げるのはどうか。
○　日常的に生涯学習を学んでいる方で、生活の一部としている様子を取材してはどうか。

○　障がい者スポーツに取り組んでいる選手を取り上げてみてはどうか。

協議２　各地区の取り組みについて

○　県立看護大としては、学生を企画委員に加える予定。企画段階から、当事者の意見を加えるために、調査などを行い、話し合うことが重要。

○　青島青少年自然の家は、宮崎市聴覚障害者協会と共同して、イベントにブースを設ける予定。手話を通した交流を図る。

○　都城市は、高城地区で防災体験教室を実施する計画である。勉強会と体験会。特別支援学校の児童生徒にも参加を呼びかけるなど、幅広い参加者を想定し、地域のボランティアネットワークなどと連携して取り組む。

○　小林市は、委託によらずに、講座を試験的に実施する予定。

○　日向市は、今年から再委託事業を実施する。参加者の集め方や講座タイトルのアイデアが欲しい。

○　延岡市では、３回の講座を予定している。第２回は、昨年と同じ、勤労感謝の日に実施する。コンソーシアム委員も、できる限り企画や運営などに加わって欲しい。

第２回

協議１　共生社会コンファレンスについて

○　会場は、障がいのある人も利用しやすく、アクセスしやすい場所が良い。

○　昨年の会場は、県教育研修センターだったが、市の中心部から遠く、路線バスも少なく不便。

○　会場は、駅から近い場所が良い。

○　宮崎市役所隣のオルブライトホールや宮交シティだと、集客しやすく、アクセスも良い。

○　手話通訳だけではなく、字幕（要約筆記）があった方が良い。

○　昨年と同じように、会場だけでなく、オンライン参加ができるハイブリットで開催してほしい。

○　イベントの趣旨やターゲットによって、著名な方を呼ぶと、集客が望める。

○　書家金澤翔子さんの母親や、水泳選手の池江璃花子さんの母親など、障がいがある人や病気からカムバックした人を支えた家族による講演も良いと思う。

○　情報を受け取るだけのイベントになりがちなので、１カ所でもいいので、参加型を入れて、コンファレンスの意義を深めてみてはどうか。

○　ステージだけではなく、体験もできるようにすると良い。ダンスなど障がい者団体の発表などもあっても良いのではないか。障がいのある方々によるプロの太鼓集団もある。

○　団体紹介等で、県外の事例も紹介しても良いのではないか。

○　団体紹介の趣旨と離れるが、障がいのある方々に、インタビューしてみてはどうか。

○　シンポジウムは、昨年と同じように、学生や障がいのある方も登壇してほしい。

○　会場内また外に、事業所の販売ブースを設けてみても良いのではないか。

協議２　各地区の取り組みについて

○　県立看護大学では、学生が身体障害、聴覚障害など、様々な障がい種について、当事者の方から直接、意見を聞く調査を行っている。企画委員全員で共有する場を設けて、実施内容を企画していく。

また、他学の障がいのある学生に、同世代として話を聞くなどなどの調査を予定。コンソーシアム協議会委員が所属する団体にも出向く。

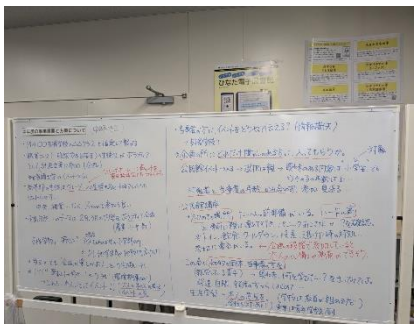
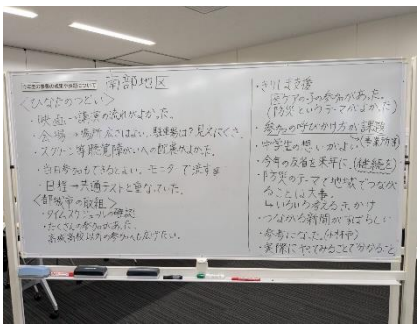
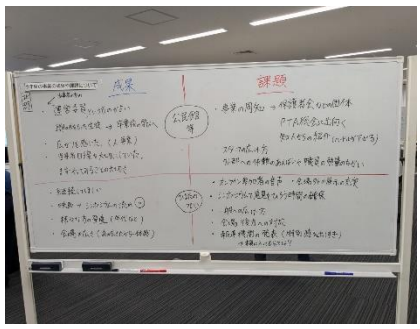
○　都城市は、防災対策体験教室の準備を進めている。放課後デイサービスや、特別支援学校などを中心に呼びかけている。ボランティアは、中学生や高校生、大学生、民生委員、地域のボランティアネットワークに依頼する。避難所体験や防災食の試食などを行う予定。

○　小林市は、フライングディスクの体験教室を行う予定。障害者スポーツ団体等に協力を要請する。

○　日向市は、まず中央公民館でやってみて、いずれは他の６館にも広げたいというねらいがある。調理体験教室を開催し、包丁を使わない調理を体験してほしいと考えている。講座名は「いろいろ」で考えている。講座案内のチラシ等は、助言を生かして、文字を少なくし、イラストをつけたチラシを作成していきたい。また、定員を超えた場合は抽選する旨を、チラシに加えておきたい。

○　延岡市は、ボランティア募集を行う。コンソーシアム連携協議会委員も協力してほしい。今年度の講座案内は SNS を利用する。延岡市公式 LINE と Facebook に記載する。昨年の参加者が、企画運営に関わるようになった。２次元コードからの申し込みが多いことがわかったので、今後も活用したい。

第４回

協議１　今年度の事業の振り返り

○　今回のひなたのつどいは、映画から講演の流れでプログラムを構成したのが良かった。

○　ひなたのつどいの会場は、場所や広さがちょうどよかった。専用駐車場が無かった。後方の席からステージが見えづらかった。

○　ひなたのつどいで、モニターでの要約筆記など、聴覚障がいへの配慮がとてもよかった。

○　ひなたのつどいは、当日参加を受け付けてもよかったのではないか。

○　様々な立場の方が登壇したことが良かったので、この流れを来年度も継続してほしい。

○　オンライン参加者の音声は、制限できなかったのか。コンファレンスとは関係ない参加者の音声が流れ続けていたので、次年度は、ウェビナーなどを活用してはどうか。

○　講演が長引いてしまったが、シンポジウムで会場参加者の意見をもらう時間を確保できるとよい。

○　ひなたのつどいについて、報道機関への放送は、特別感を出しすぎていたように感じる。報道関係者を、コンソーシアム委員に加えることはできないのか。

○　都城市の取組は、中学生や高校生がボランティアとして参加したこと、支援学校の医療的ケアの児童が参加したこと、防災をテーマに地域でのつながりを意識できたことが良かった。

○　コンソーシアム連携協議会委員の外山さんが中心となって作成した「つながる新聞」は、都城市生涯学習課の事業内容がよくまとまっており、皆さんから良い評価を受けている。
○　延岡市の取組は、当事者の方が運営委員に加わったのは、素晴らしいことだと思う。当事者の目線を大切にできた。
○　参加者の中に、次の運営委員として関わりたいと要望を伝えてきた方もいた。人や事業に広がりを感じてきている。
○　事業の周知に、課題を感じる。卒業生保護者会などの団体にどう伝えていくか、支援学校の保護者にどう伝えていくかなど検討していきたい。
○　北部地区のイベントが重ならないように、お互いに連絡し合うなど留意する。
○　当事者のニーズ把握が大事で、福祉課との連携強化によって、どのくらい人や社会と関わりたいかなど調べていきたい。
○　ボランティア等を募る際の配慮も考えていきたい。求めるものが高すぎると、ボランティアが集まらない場合もある。
○　合理的配慮についての発信の仕方は、工夫や配慮が必要。

協議２　次年度の事業展開と方策について

○　これから設立される高等特別支援学校で就職を目指す生徒は、ボランティアとして、看護大学のイベント作りに企画立案に参加したりすることも考えられる。
○　特別支援学校の高等部の生徒は、グレーゾーンの生徒も多く、意思疎通が図れることが多いので、企画会議等にズームで参加しても良いかもしれない。明星視覚支援学校やみやざき中央支援学校等。
○　講座の当日に参加できなくても、企画などに関わることを楽しむ生徒もいる。
○　コンソーシアム連携協議会には、卒業生の保護者が作った団体もあるので、何を学びたいか、調査してみるのも良い。
○　生涯学習は、本人の意見を尊重して何を学びたいか決めていくことが大事。
○　知的障がいのある方は、生活年齢と噛み合わずに参加を見送る場合がある。小学生から参加できる講座であっても、実年齢が高いために、参加しない場合もある。
○　都城市は、今年度の取り組みを継続して次年度もやっていきたい。
○　特別支援学校の家庭教育学級と連携することも考えられる。
○　小林市は、公民館講座の中で実施するよう検討している。

４　成果と課題

(1)　成果

①　委員の立場や職種を超えて、今年度の事業について協議することができた。
②　少人数で協議することで、活発な議論を行うことができた。協議会での意見を生かして、特別番組・啓発ＣＭ、共生社会コンファレンス、公民館等モデルや大学公開講座などの事業を実施できた。
③　各地区の事業について協議することで、連携体制作りにつながった。事業を実施する際は、連携体制を活かした企画や案内、講座運営などを行うことができた。

(2)　課題

①　学校関係者や社会福祉など、関連する所属先ごとに集まり協議する時間を設けることも必要である。市町村担当者が情報共有する時間を設けることで、他の市町村に示すモデル事業が精選される。
②　各地区での打ち合わせに、事務局として積極的に参加すべきである。打ち合わせに、コンソーシアム連携協議員も参画できるようにするため、委託先の担当者が会議の日時等を連絡する。
③　全体会での協議を深める必要がある。地区別協議の中で解決できなかったことなどを、全体会で報告し、全員で協議することで情報共有を図る。

2　市町村公民館講座等担当者会

1　主旨

本会は、障がいの有無や性別、年齢に関わらず、すべての人が社会教育を平等に学び、生涯学習に参加できる機会、環境を整えるために、社会教育・生涯学習における合理的配慮の提供や、情報保障・情報提供ついて研修することを目的とする。

障がい者のニーズを理解し、適切な支援や配慮を行うことで、学習機会の拡充と共生社会の実現を目指す。

2　テーマ

社会教育・生涯学習における合理的配慮の提供や、情報保障・情報提供について

3　期日

令和６年 10 月 30 日(水)
午後１時 30 分から午後４時まで

4　会場

宮崎県立聴覚障害者センター　研修ホール
〒880-0051　宮崎市江平西２丁目１－２

5　日程及び内容

13:10　13:30 13:35　14:25　14:45 14:55　15:40　15:55 16:00

受付	開会	講義	説明	休息	協議	指導助言	閉会

(1)　講　　義　文部科学省「障害者の生涯学習推進」アドバイザー
　　神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授　津田 英二 氏
　　演題「障害者の生涯学習推進について」
(2)　説　　明　県障がい福祉課による説明
　　県立聴覚障害者センターによる事例紹介
　　県立視覚障害者センターの紹介
(3)　協　　議　グループ協議
　　「現在行っている合理的配慮の提供と、今後取り組む情報保障などについて」
(4)　指導助言　文部科学省アドバイザー津田 英二 氏

6　参加者

市町村公民館講座等の担当者、県社会教育施設の担当者、コンソーシアム連携協議会委員

7　参加数

37 名　　内訳）市町村公民館講座等担当者　　11 名
　　県社会教育施設の担当者　　6 名
　　コンソーシアム連携協議会委員　19 名（市町村公民館講座等担当者含む）

8　協議の内容（抜粋）

それぞれが担当している社会教育講座やイベントについて、今すぐ行うことができる工夫や改善点について協議した。

○　企画する段階で、障がいのある方を加えることで合意形成ができ、ニーズに合った講座を提供できる。

○　公民館のことを知らない方が多いので、障がいのある方や家族に、公民館のことをまず知ってもらう。

○　障がいの種類や程度などターゲットを絞りすぎると、間違った認識を生むことがあるので、講座のチラシに「配慮が必要な方はご相談ください」の文言を加えることで、参加者の間口は広がるのではないか。

○　既存の社会教育講座に、障がいのある方たちが、「調査隊」、「モニター」として参加する機会を設け、意見を伺う。

○　まずは、フライングディスクなどのニュースポーツ関連のイベントから取り組んでみてはどうか。

○　映画上映会を開催し、障害のある方も参加できるように募集したことがある。障がいのある方もたくさん参加してくださった。学生や若い方が企画や運営に関わってくると、若者の理解が広まると思う。

○　障がいのある方の参加申し込みがないのが現状なので、まずは、講座のことを知ってもらう工夫が必要。

○　障がいのある方々の話を聞いてみる。伺った内容や事情を講座に反映させる。

○　公民館講座や社会教育講座の広報等をもう少しわかりやすくする。特に、知的障がいのある人も見て理解できるように、イラストなどを加えるなど工夫する。

○　「何か困り事があれば、お問い合わせください」など、公民館講座等のチラシに記載する。

○　チラシや館内案内にルビを加える。

○　障がいの有無、年齢、性別など関係なく、誰でも参加できる公民館講座等を、１つずつ作っていく。

9　成果と課題

(1)　成果

①　文部科学省「障害者の生涯学習推進アドバイザー」を活用して、市町村公民館や社会教育施設で講座・イベントを担当する職員を対象にした研修会を、初めて開催することができた。障がいのある方々が生涯学習に参加する意義などについて講義していただき、県障がい福祉課などが合理的配慮を説明したことで、「今できること」に絞って協議を行うことができた。

② 県立視覚障害者センターで会議を開催したことで、市町村公民館や社会教育施設で講座イベントを担当している職員と、県立聴覚障害者センター・県立視覚障害者センター職員が連携できる機会を設けことができた。

③ 担当業務の現状や、研修を受けた内容をどのように生かすか協議することで、公民館講座を案内するチラシの改善など事業改善につなげるきっかけとなった。

⑵ 課題

① 参加した市町村数が少なかった。開催日を４月に決定し、市町村課長等会議、県内九市課長会などを通じて、早めに呼びかける必要がある。

② 県内で実践してきた結果などを示すことができなかった。担当者会で県内の実施事例を示すことで、市町村の担当者がイメージをもって取り組みやすくなる。

③ 令和６年４月から、民間を含め、合理的配慮の完全義務化が始まったが、完全に理解されていない部分も多いので、当事者や関係機関の協力を得て、合理的配慮の具体例などについて研修で示す必要がある。

Ⅲ　実践研究

みやざき
共生社会のまなび

1　実践研究

Ⅰ　実践研究について

実践研究は、公民館モデルと大学公開講座、特別支援学校取組推進校を行った。
そのうち、公民館等モデルは、新たに日向市を加えた３市１施設に、再委託し実践研究を行った。

１　公民館等モデル

⑴　都城市教育委員会生涯学習課
⑵　延岡市教育委員会社会教育課
⑶　日向市教育委員会生涯学習課
⑷　宮崎県青島青少年自然の家

２　大学公開講座

⑴　宮崎県立看護大学

３　特別支援学校取組推進校

⑴　宮崎県立清武せいりゅう支援学校
⑵　宮崎県立赤江まつばら支援学校

Ⅱ　実践研究の概要

１　公民館等モデル

⑴　都城市教育委員会生涯学習課

参加者数	延べ１５９名
実施内容	【防災対策体験教室】 実　施　日：令和６年１０月１９日（土） 会　　場：都城市高城生涯学習センター 参加者数：　１００名 （指導者４名、の障がい者１９名、保護者２名、事業所スタッフ９名、生徒・学生ボランティア２６名。地域ボランティア１２名。その他２８名） 【フラワーアレンジメント体験教室】

	会　　場：都城市中央公民館 参加者数：１０名（指導者２名、障がい者４名、家族１名、サポートボランティア３名） 【かぎ編み体験教室】 実　施　日：令和７年１月２６日（日）１３：３０～１５：３０ 会　　場：都城市中央公民館 参加者数：９名（指導者２名、障がい者２名、一般２名、サポートボランティア３名） 【書道教室１】 実　施　日：令和７年２月１日（土）１４：００～１５：３０ 会　　場：祝吉地区公民館 参加者数：２１名（障がい者１１名、事業所支援者８名、小学生２名） 【書道教室２】 実　施　日：令和７年２月８日（土）１４：００～１５：３０ 会　　場：祝吉地区公民館 参加者数：１９名（指導者３名、障がい者５名、家族４名、事業所支援者５名、行政２名）

⑵　延岡市教育委員会社会教育課

参加者数	延べ２２６名
実施内容	生涯学習講座の実施（３回） １　第１回講座 ⑴　実施日　９月２８日（土） ⑵　実施時間　９：４０－１２：００ ⑶　内容 講座１　はっぱのスタンプ　　講師　遠田　てい子　氏 講座２　太極拳　　講師　山本　勲　氏 ⑷　参加者 講座１　１３名、　講座２　８名 ⑸　申込方法 Web フォーム　１１件（知的　５名、身体１名、精神２名、その他２名）、

電話１名、当日２名

⑹ スタッフ　１３名

内訳：コンソーシアム委員３名、支援学校卒業生２名、県２名、
ボランティア団体１名、障がい福祉課１名、社会教育課４名

⑺ 第２回講座に向けて

○ 支援学校卒業生を中心に、事前準備を行う。
○ 各自昼食の準備をし、１日の日程で講座を実施する。
○ 中学生ボランティアを募集する。

２　第２回講座

⑴ 実施日　１１月２３日（土）
⑵ 実施時間　１０：００－１５：３０
⑶ 内容

講座１	楽しい運動	講師　黒田　雄三　氏
講座２	エコバックデザイン	講師　県環境情報センター
講座３	メイク	講師　M&かおり　氏
講座４	スノードーム	講師　市社会教育課職員
講座５	ハンドマッサージ	講師　Ｇｉｆｔ～優しさと笑顔あふれるサロン～
講座６	アロマスプレー	講師　右田　佐和子　氏
講座７	木工チャレンジ	講師　桑畑　拡　氏

ステージ発表

⑷ 参加者

講座１　　２４名、　講座２　１５名、　講座３　　９名、講座４　３７名、
講座５（体験）５名、　講座６　１６名、　講座７　１７名、講座８　１１名

⑸ 申込方法

Web フォーム５７件（知的　１６名、身体７名、精神２名、その他４名）、当日３名

⑹ スタッフ　２５名

内訳：コンソーシアム委員１名、支援学校職員６名、大学生３名、
卒業生４名、中学生８名、ボランティア団体２名、県生涯学習課４名、
市障がい福祉課１名、市社会教育課４名

⑺ 第３回講座に向けて

○ 中学生ボランティアを募集するならば、事前に、十分な説明、準備が必要である。
○ ボランティアスタッフにはわかりやすい説明資料が必要である、
○ 会場は火を使わなければ試食も可能とのことなので、簡単な調理実習を行う。
○ 食材を取り扱う店舗（請求書払いが可能）を探す。
○ 日本茶の入れ方講座も実施する。

３　第３回講座

⑴ 実施日　１月２６日（日）
⑵ 実施時間　９：５５－１２：４０
⑶ 内容

講座１	ＺＵＭＢＡダンス	講師　Ａｙｕｍｉ氏
講座２	ホットケーキをつくろう、お茶を入れよう	

⑷ 参加者

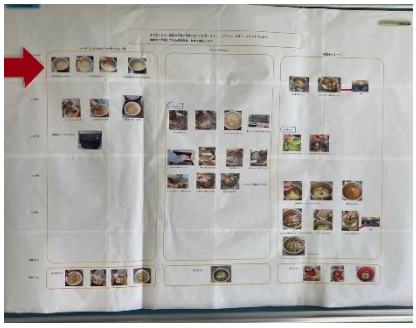
講座１　１２名（１３名申込）、講座２　１３名（１５名申込）

⑸ 申込方法

Web フォーム９件、電話１名、メール３名（知的　９名、精神１名）

	⑹　スタッフ　９名 内訳：コンソーシアム委員１名、大学生２名、県生涯学習課１名 市障がい福祉課１名、市社会教育課４名 ⑺　令和７年度講座に向けて ○　継続して事業を実施する。 ○　「共に学ぶ」場の設定とする。 ・　座席の配置、内容の検討を行う。 ・　内容について、ＺＵＭＢＡ、ホットケーキは、共に好評だった ○　ボランティアスタッフの依頼、事前打ち合わせを早めに計画する。 ○　予算確保

⑶　日向市教育委員会生涯学習課



参加者数	延べ４２人
実施内容	講 座 名：共生社会を目指す生涯学習講座「いろいろ」 対　　象：市内に住所を有する又は就学先、勤務先が日向市にある障がいのある方及びその家族 日　　程：（第１回）令和６年１１月１６日（土）　９：００～１２：００ （第２回）令和６年１１月３０日（土）　９：００～１３：００ （第３回）令和７年　１月２０日（月）　１５：２０～１６：２０ 会　　場：日向市中央公民館（第１～２回） 宮崎県立日向ひまわり支援学校（第３回） 内　　容：（第１回）「革の小物づくり教室」、「ズンバ教室」 （第２回）「包丁を使わない料理教室」、「ヨーガ教室」 （第３回）「オリジナルバッグづくり」 講　　師：（第１回）「革の小物づくり教室」　【講師】ＶＩ　ＣＯＮＴＥ （第１回）「ズンバ教室」　【講師】佐々木　寿美佳 （第２回）「包丁を使わない料理教室」　【講師】日向市生涯学習課 （第２回）「ヨーガ教室」　【講師】依田　貴美恵 （第３回）「オリジナルバッグづくり」　【講師】日向市生涯学習課 参加者数：（第１回）　延べ１８名、（第２回）　延べ１６名、（第３回）　８名

(4) 宮崎県青島青少年自然の家

実施内容	「ひなたこどもフェスティバル」におけるブース運営 1　テーマ 障がいの特性の理解と実践 ～様々な人が交流できる施設になるために～ 2　取組の目的 ・　様々な人が利用できる施設を目指す。 ・　様々な人が交流できる場を提供する。 3　取組の経緯 様々な人が交流できる施設となるための変革の一つとして、障がいのある人が本施設での研修を通した学びをより高める。また、障がいのある人とない人が交流する機会を設けることで、インクルーシブの役割を担う施設となるため。 4　取組内容 (1)　宮崎市聴覚障害者協会への依頼と打ち合わせ 昨年度に開催された、「ひなたのつどい」において宮崎市聴覚障害者協会の堀口会長と交流させていただいた機会に、今年度の本事業への協力を依頼し快諾いただいた。その後は、メールや対面での打ち合わせを重ね本番に備えた。 (2)　主催事業「ひなたこどもフェスティバル」におけるブース運営 今年度、当施設で初めての事業「ひなたこどもフェスティバル」を開催し、子どもとその保護者約 3000 人の来場者が訪れた。これは、子どもの夢を後押しするイベントで 25 団体の企業や青少年団体の協力を得てブース運営をしていただいた。宮崎市聴覚障害者協会もその中の 1 つのブースとして、来場者に対し手話体験を提供していただいた。参加者は、自分の名前や簡単な日常会話や挨拶などの手話表現を体験し、聴覚障がいへの理解を深めた。

2　大学公開講座

宮崎県立看護大学

実施内容	第１回企画委員会 内　容：事業概要説明・実施計画・グループワーク当事者との意見交換 実施日：令和６年７月２５日（木） 場　所：宮崎県立看護大学　多目的ホール 参加者：１２名（学生７名、県担当者１名、教職員４名）
	第２回企画委員会 内　容：各班企画内容発表・企画内容について意見交換 実施日：令和６年８月２６日（月） 場　所：宮崎県立看護大学　多目的ホール 参加者：１７名（学生１２名、県担当者１名、教職員４名）
	情報収集・打ち合わせ 内　容：視覚障害者のニュースポーツに対する意見 実施日：令和６年９月９日（月） 場　所：宮崎県立看護大学　家庭看護・人間活計実習室 参加者：５名（当事者１名、学生１名、教職員３名） 第３回企画委員会 内　容：企画下調べの報告・プログラム（案）・担当役割の確認・他大学生の協力について 実施日：令和６年９月１２日（木） 場　所：宮崎県立看護大学　多目的ホール 参加者：１３名（学生８名（２名オンライン参加）、教職員５名）
	第４回企画委員会 内　容：実施要領説明・当事者からの意見及び情報収集追加報告・当日の流れ確認 実施日：令和６年１０月７日（月） 場　所：宮崎県立看護大学　多目的ホール 参加者：１９名（当事者２名、学生９名、県担当者２名、教職員５名）、手話通訳者１名 情報収集・打ち合わせ 内　容：身体障害者のヨガに対する意見 実施日：令和６年１０月１５日（火） 場　所：ＹＡＨ！ＤＯみやざき 参加者：６名（当事者１名、学生３名、教職員２名）
	共生社会をめざす生涯学習講座　「一緒にやってみよう！　ｉｎ　看護大」 内　容：【動】ニュースポーツ、体験コーナー（点字、手話、ハンドマッサージ等） カフェコーナー（休憩） 【静】体のことミニ講座、芳香浴＆椅子ヨガ 実施日：令和６年１０月２６日（土） 場　所：宮崎県立看護大学 研究棟２階　臨床看護実習室３－２・３－３、ラーニングコモンズ 参加者：一般参加者：１３名（当事者１２名（視覚１名　聴覚１１名）家族１名、 援護者：３名（ガイドヘルパー１名、手話通訳者２名） 実行委員２４名：学生１８名、教職員５名、その他１名 企画委員１７名（当事者１名（視覚１名）、学生１０名、教職員５名、県担当者１名

3　特別支援学校取組推進校

(1)　宮崎県立清武せいりゅう支援学校

①　参加生徒

学年等	人数	取組の主体となる対象	備　　考
中学部・高等部	生徒１４名、職員１４名、学生ボランティア７名	支援学校中学部、高等部生徒全員及び職員、学生ボランティア	

②　外部講師

講師名	所属	経歴等
山之内 俊夫氏	特定非営利活動法人　障害者自立応援センター　YAH!DO みやざき　副理事長	特定非営利活動法人　PA みやざき事務局長

③　実施する内容

ア　実施内容

・　生涯学習のイメージづくり
・　生涯学習の意欲向上に向けた取組

イ　具体的な取組

・　ヘルパーとの関係づくりについて（２０分）
・　ボッチャを通じたヘルパーとの関係づくりの実践（１００分）

ウ　取組に関する成果と課題

【成果】
・　特定非営利活動法人　障害者自立応援センターYAH!DO みやざきメンバーの体験談を聞き、支援者に自ら支援を依頼する大切さを理解した上で、活動に取り組むことができた。
・　実際に学生ボランティアとボッチャを楽しむ活動を通して、楽しい時間を共有することが、他者との良好な関係を築くための基礎であることが分かったようであった。
・　卒業後の社会生活において、自ら支援を依頼できる生徒の育成が必要であることを、本校職員

に周知することができた。

【課題】

・　授業実施の時期が、周辺大学の学生ボランティアが集まりづらい時期であった。今後、学生ボランティアを募る場合、授業実施の時期を考慮する必要がある。

・　学生ボランティアとの関わりの中で、支援者との関わりについては実践的に学ぶことができたが、生徒や学生ボランティアが感想を発表し、意見を交換して考えを深める活動を行うことができなかった。

⑵　宮崎県立赤江まつばら支援学校

①　参加生徒

学年等	人数	取組の主体となる対象	備　　考
高等部３年	生徒３名、職員１０名	高等部に所属する生徒	高等部以外の職員にも講話を開放

②　外部講師

講師名	所属	経歴等
木下　大輔氏	株式会社ボラシェア	宮崎大学工学部環境ロボティクス学科卒。脳性麻痺、ヒルシュスプルング病で生後すぐに大腸を摘出、小腸は半分のみ。現在就労移行支援事業所ブルーオーシャンで就労促進室室長として勤務する傍ら、パラリンピックの陸上競技で優勝を目指すアスリートでもある。

③　実施する内容

ア　実施内容

・　生涯学習のイメージづくり

・　生涯学習の意欲向上に向けた取組

イ　具体的な取組

・　生涯学習の意義、自身の生涯学習に関する講話（４０分）

・　質疑応答・フリートーク（１０分）

ウ　取組に関する成果と課題

【成果】

・　答申および白書を通して、生涯学習のイメージ作りは達成できた。

・　MEXT のホームページに掲載している説明を通して、共生社会を理解することができた。

・　白書を通して生涯学習が必要な理由を理解することができた。

業を行ったが、重複障がい学級の生徒には、事前指導における座学が難しそうだった。
- 和太鼓などの実践的なものも今後の推進活動に取り入れたい。
- 障害者手帳を所有する生徒と所有していない生徒とを分けて授業を行うことも考えられる。
- 体調管理を考慮し、もう少し暖かい時期に設定すべきであった。
- 今回の取組を小学部や中学部にも周知したい。
- 生涯学習の意欲を向上させるところまでを達成することができたか疑問に感じている。

Ⅲ　成果と課題

1　成果

⑴　それぞれの委託先で、企画や運営などに障がいのある方が参加できた。当事者目線での運営などが行うことができ、安心して参加できる環境づくりにもつながった。

⑵　講師への事前説明により、講座内容や手順の説明、教材の工夫等が見られた。既存の社会教育講座で講師をしている方々にも、合理的配慮や情報保障などについて理解を広げていく。

⑶　昨年度から取り組んでいる市町村等の取組が、モデルとなっている。案内チラシの文字やレイアウトなど、委託先の担当者間で当事者を意識した工夫点や改善点を共有できた。

2　課題

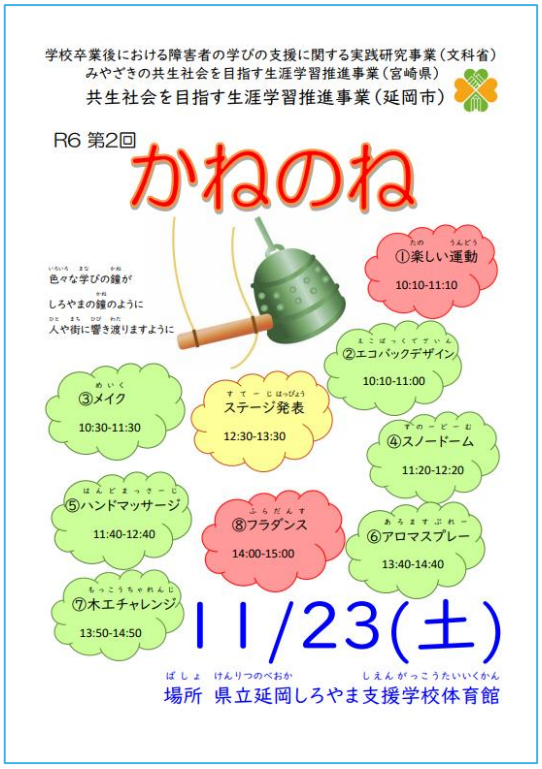
⑴　参加者の広がりが必要である。新たな参加者を集めるために、放課後ディサービス事業所や就労移行サービス事業者、障がい者団体等へ積極的に案内する。

⑵　当事者の声を生かすために、参加者アンケートを実施する必要がある。どの委託先も同じ項目のアンケートを実施することで、今後の事業改善に繋がる。ニーズ把握につながるので、企画段階から当事者が参加する取組は継続する。

⑶　新たな市町村に、モデル事業を広める必要がある。九市課長会や市町村公民館講座担当者会などで、事業概要や再委託などについても説明する。

参考　講座案内チラシ（一部）

延岡市教育委員会社会教育課主催　令和６年度生涯学習講座「第２回かねのね」



日向市教育委員会生涯学習課主催　令和６年度生涯学習講座「第１回いろいろ」

Ⅳ　普及啓発・情報提供

みやざき
共生社会のまなび

1　令和６年度九州沖縄ブロック（宮崎県）共に学び、生きる共生社会コンファレンス「ひなたのつどい 2024～誰にでも開かれた学びの場を広げるために」開催報告

Ⅰ　概要

1　趣 旨

「障がい者の生涯学習」の推進に向けて、障がいの有無にかかわらず、誰もが共に学び、共に生きる共生社会の実現のために、地域における障がい者の生涯を通じた学びの場の整備を目指して、宮崎県内の関係者が、一般県民向けや、障がい者の生涯学習に関心のある方々に向けて、障がいのある方々の生涯学習について先進事例を紹介する機会とする。

※　映画「ぼくが生きてる、ふたつの世界」無料鑑賞会を、午前に宮崎キネマ館にて実施。

2　主催

宮崎県教育委員会、文部科学省

3　運営委託

株式会社ＡＶＣ放送開発

4　テーマ

誰にでも開かれた学びの場を広げるために

5　日時

令和７年１月 18 日(土）午後１時から午後４時まで（受付・体験コーナーは正午より）

※　映画「ぼくが生きてる、ふたつの世界」無料鑑賞会

午前９時 50 分から午前 11 時 40 分まで

6　開催方法・参加方法

ハイブリッド開催（会場参加、ＷＥＢ会議システム「ZOOM」でのオンライン配信）

7　会場

(1)　コンファレンス会場

ＫＩＴＥＮビル８階コンベンションホール

〒880-0811　宮崎市錦町１番 10 号

(2)　映画無料鑑賞会

宮崎キネマ館　シネマ１

〒880-0812 宮崎市高千穂通１丁目 178

8　日程及び内容

9:20　9:50　11:40　12:00　13:00　13:25　14:15　14:25　14:55　15:05　15:55　16:00

無料鑑賞会受付	映画上映「ぼくが生きてる、ふたつの世界」	移動等	開場（電子書籍体験）	オープニング	講演	休息	実践発表	休息	シンポジウム	クロージング
宮崎キネマ館										

＜ステージ＞

全体司会　真北　聖子　氏（シンガーソングライター）

⑴　オープニング

文部科学省の事業説明

文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課

障害者学習支援推進室長　男女共同参画学習室長　星川　正樹　氏

⑵　講演

「ろう者の俳優を通して伝えたいこと

～分け隔てなく誰にでも優しいコミュニケーションを～」

忍足　亜希子（おしだり　あきこ）　氏

⑶　県内団体紹介（動画）

○　宮崎わたぼうし会

○　みやざきフェニクサーズ　バレーボールクラブ

○　新富音声訳グループ「たんぽぽ」

○　石原書道教室

○　延岡手話サークルわかあゆ

○　コーラスグループ　ハッピーハミング

○　ヴィアマテラス宮崎エスペレーラ

⑷　実践発表

①　宮崎県の取組について

宮崎県教育庁生涯学習課　社会教育主事　武田　幸一

②　生涯学習講座「いろいろ」（公民館等モデル）

日向市教育委員会生涯学習課　主任主事　長友　俊介　氏

③　「未来の夢を考える授業」

宮崎県立清武せいりゅう支援学校　教諭　川﨑　貴文　氏

（NPO 法人障害者自立応援センターYAH！DO みやざき）

⑸　シンポジウム

登壇者　忍足　亜希子　氏

長友　俊介　氏　（日向市教育委員会生涯学習課主任主事）

鶴　大輔　氏　（宮崎県立視覚障害者センター職員）

阿萬　暖々果（ののか）　氏（五ヶ瀬中等教育学校４年生）

武田　幸一　（宮崎県教育庁生涯学習課社会教育主事）

司会者　真北　聖子　氏

⑹　クロージング

＜映画無料鑑賞会＞

映画「ぼくが生きてる、ふたつの世界」（105 分）　★会場参加者で鑑賞希望者先着９０名

バリアフリー字幕付き上映、音声ガイドアプリ対応（参加者が各自で事前準備）

＜体験コーナー（コンファレンス会場内）＞

電子書籍「ひなた電子図書館」体験、読書バリアフリー書籍等の体験

＜展示（コンファレンス会場内）＞

県内市町村教育委員会や大学等の取組、読書バリアフリー、文部科学大臣表彰団体

9　情報保障

手話通訳、要約筆記、聴覚障がいのある方の優先席、車椅子スペース

※　映画の無料鑑賞会にて、映画鑑賞用の音声ガイドアプリ案内

10　参加対象

障がいのある方々の生涯学習に関心のある方

11　申込み方法・申込先

(1)　２次元コード（ＷＥＢフォーム）、電話、ファクス（チラシ裏面）で受付

(2)　申込先・問い合わせ先　　株式会社ＡＶＣ放送開発

12 広報

○　チラシの配布（特別支援学校、市町村教育委員会、県内各学校等）

○　テレビ番組（県教育委員会の番組）やラジオ番組（県政ラジオ番組）での告知

○　県庁ホームページ、県生涯学習課ホームページ、ＳＮＳ等での周知

○　フリーペーパー等でのイベント紹介

13　事後

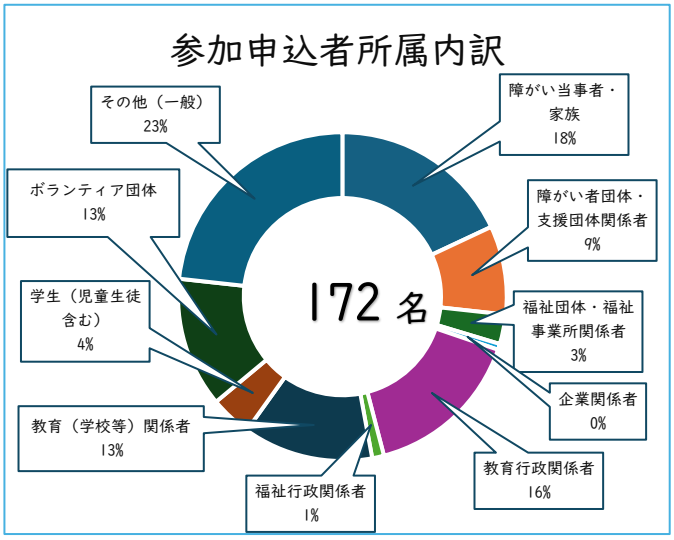
(1)　参加者アンケートの実施

(2)　県生涯学習課ホームページ「みやざき学び応援ネット」でアーカイブ動画紹介

Ⅱ　コンファレンスの実際

1　参加申込

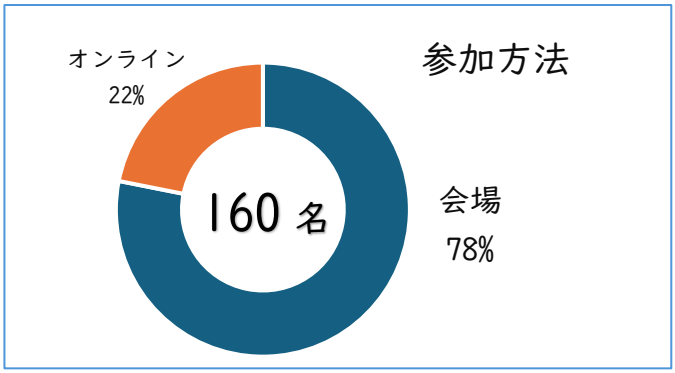
障がい当事者・家族	31
障がい者団体・支援団体関係者	15
福祉団体・福祉事業所関係者	5
企業関係者	1
教育行政関係者	27
福祉行政関係者	2
教育（学校等）関係者	22
学生（児童生徒含む）	7
ボランティア団体	22
その他（一般）	40
合　　計(名)	172



2　参加者数と参加方法

会　　場	125
オンライン	35
合計(名)	160

※　映画無料鑑賞会　74 名

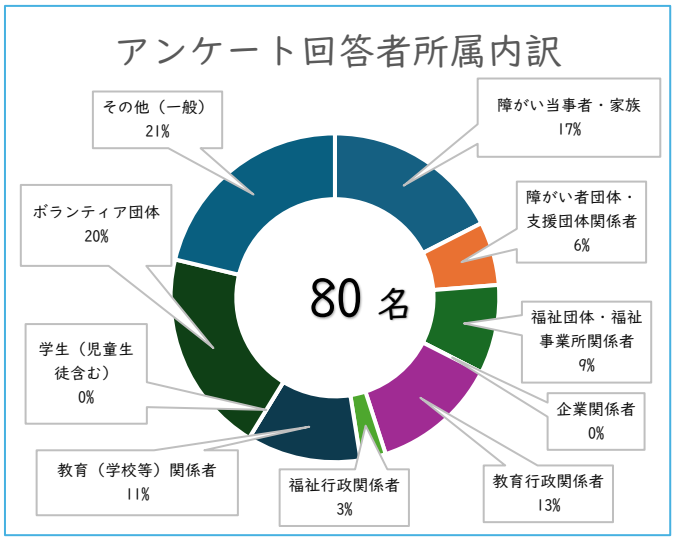


3　アンケートの回答数

○　回答数　80 名（紙媒体 55 名、WEB フォーム 25 名）

○　回答者の所属内訳

障がい当事者・家族	14
障がい者団体・支援団体関係者	5
福祉団体・福祉事業所関係者	7
企業関係者	0
教育行政関係者	10
福祉行政関係者	2
教育（学校等）関係者	9
学生（児童生徒含む）	0
ボランティア団体	16
その他（一般）	17
合　　計（名）	80



3　講演

生まれ育ちの話、銀行員として働いていたこと、ＮＨＫでのっぽさんとの出会い、俳優になるきっかけとなったこと、今回の映画の撮影時の話など、丁寧に手話で伝えられた。ご家族の話もあり、娘さんの成長を楽しみにしている様子も伺えた。デビュー前は、引っ込み思案の性格だったが、聾の俳優であることに今は誇りをもっているように感じた。

【参加者から】

○　午前に映画を見た後に講演を聞いたので、忍足さん本人から、映画のシーンや撮影秘話などの話を聞くことができて良かったです。俳優という仕事への思い、俳優を意識したきっかけが意外でした。彼女の存在は、映画の中でも、映画を見た人などたくさんの人に影響を与えていると思います。

○　忍足亜希子さんの家族や娘さんが成長する話がとても良かったです。映画に出演するようになり、視野が広がるまで、引っ込み思案だったことを知り、前向きに取り組むことの大切さに気付くことができました。

○　忍足さんの話が大変良かったです。今回の映画撮影時の話や、手話を学ばれたご主人、ご家族の話などが印象に残りました。

○　忍足さんが、俳優としてやっていくきっかけとなった、子ども達とのやりとりの話に感銘を受けました。幼少期に、障がいの有無に関係なく分け隔てなく学ぶ環境が重要だと思いました。

○　聾の俳優として活躍している忍足さんの生の声を聴くことができ、とても良かった。 ○　映画の裏話も聞けて良かった。もう少し家族やコーダの娘さんとの関係やつながり、ご自身の家庭ならではのことも知りたかった。 ○　約３０年前に高鍋町で忍足さんの講演を聞きました。久しぶりにお会いでき嬉しかった。

４　実践報告

発表内容 登壇者	「宮崎県の取組について」 宮崎県教育庁生涯学習課　社会教育主事　武田　幸一
概　要	「みやざきの共生社会を目指す生涯学習推進」の概要について、コンソーシアムの形成、実践研究、普及啓発の３つで説明した。

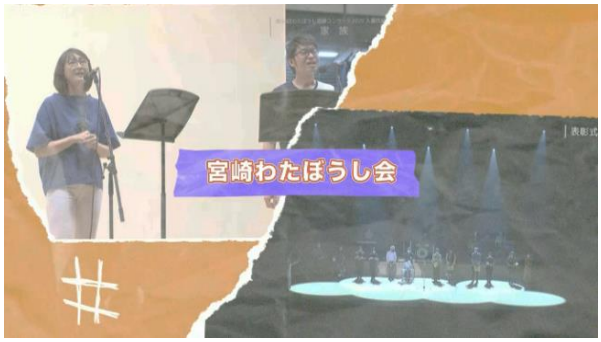
発表内容 登壇者	「共生社会の実現を目指した日向市の取組について 共生社会の実現を目指す生涯学習講座『いろいろ』」 日向市教育委員会生涯学習課　主任主事　長友　俊介　氏」
概　要	令和６年度から取り組み始めた講座について、企画段階から講座実施の様子などを報告した。

発表内容 登壇者	「未来の夢を考える授業」 宮崎県立清武せいりゅう支援学校　教諭　川﨑　貴文　氏
概　要	NPO 法人障害者自立応援センターYAH！DO みやざきと協働して、中学部・高等部の生徒を対象に実施した授業について報告した。

【参加者から】

○　実践発表の説明は、とても分かりやすかったです。 ○　実践発表では、市町村や特別支援学校の取組を知ることができました。それぞれの話をもう少し詳しく聞きたかったです。 ○　日向市の長友さん、清武せいりゅう支援学校の川﨑さんの話が分かりやすく、勉強になりました。どちらの資料も見やすかったです。 ○　日向市の「いろいろ」講座の企画が、とても素敵だと思いました。 ○　同じ行政の立場として、講座を企画するうえでとても参考になる話でした。

5　県内団体紹介（動画）



宮崎わたぼうし会（宮崎市）
ヴィアマテラス宮崎エスペレーラ（新富町）
延岡手話サークルわかあゆ（延岡市）
新富音声訳サークル「たんぽぽ」（新富町）
石原書道教室（都城市）
みやざきフェニクサーズ☆バレーボール
（都城市・延岡市）
コーラスグループハッピーハミング（宮崎市）

【参加者から】

○　障がい者の生涯学習について取り組む県内団体の活動を知ることができ、参考になりました。このような活動を、一般の方へ知ってもらい、理解を広げていくことが大切だと思いました。

○　障がい当事者です。県内団体の活動を知らなかったので、とても参考になりました。機会があれば、是非参加してみたいです。

○　多様な主体がそれぞれの立場で実践されており，また，障がい当事者の考えを尊重した素晴らしい取組が大変参考になりました。

6　トークセッションの概要

テーマ	誰にでも開かれた学びの場を広げるために
登壇者	忍足　亜希子　氏（俳優） 長友　俊介　氏　（日向市教育委員生涯学習課職員） 鶴　大輔　氏　　（宮崎県立視覚障害者センター職員） 阿萬　暖々果　氏（宮崎県立五ケ瀬中等教育学校４年生） 武田　幸一　　（宮崎県教育庁生涯学習課社会教育主事）
進　行	真北　聖子　氏
概　要	鶴さんは勤務先の県立視覚障害者センターで開催しているスマホ教室について、阿萬さんは幼少期に難聴の兄のために手話を覚え始めてから今年の高校生手話パフォーマンス甲子園で準優勝するまでの話を紹介した。忍足さんを含め、登壇者それぞれが、それぞれの活動を広げるためにどうすればよいか、今後の活動について思いを述べた。

【参加者から】

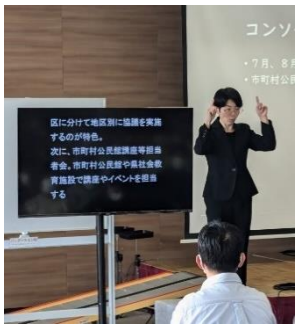
○　登壇者の貴重な話を聞くことができた。更にシンポジウムの深さが増していくとよい。
○　視覚障害者センター職員の鶴さんが話されたことは、私にとって目から鱗の話で、とても勉強になりました。高校生の阿萬さんのお話がすばらしく、イベントが終わってから本人に感動を伝えさせていただきました。
○　シンポジウムで、それぞれの立場の話が聞けて良かった。
○　シンポジウムに登壇された皆さんから元気を頂きました。職場で障がい者配慮研修に参加し、これまでは、配慮することが必要とされる方に対する特別なものだと一方的に考えていました。配慮ではなく、お互いが気持ちよく生きていけるよう尊重していくことが大事だと感じました。

7　コンファレンス全体

【参加者から】

○　「ひなたのつどい」に初めて参加させていただき、色々な取り組みをされていることが分かり勉強になりました。イベントを知る前に忍足さんの映画を観ていなければ、ここに参加することも無かったと思います。誰もが一緒に学び生きる社会、普通に当たり前に考えられる社会であってほしいと思います。理想と現実の差はあるかと思いますが、一人ひとりが共生社会の意識をもち、生きやすい世の中になるといいと思います。
○　駅から近い会場だったので、障がいのある方々も参加しやすかったと思う。映画を視聴し、その映画に出演された忍足さんの話を聴けて最高でした。シンポジウム、そして真北さんの司会も、最高でした。
○　映画を盛り込んだ、動きのあるイベントだった。映画館からコンファレンス会場へ徒歩

で移動でき、駅前なので昼食の心配も解消された。
○　聴覚障がいの方々の参加が多く、参加者の幅の広がりを感じた。休憩中、手話で話す方が会場にあふれ、色々なコミュニケーションがあることを普通に体験でき、嬉しく思った。
○　共生社会のために、それぞれが歩み寄ること、そのためにコミュニケーションをとることの大切さを改めて考えました。一人一人が自分でできることを事前に行えるよう、共に理解し合える社会に向けて、学生達にも伝えていきたいと思います。
○　支援学校の元教員です。学校卒業後の生活のバリエーションは、人格形成にも、人生の質にも影響あるし、選択肢が少ないことに悲観していました。無ければ、地域の人、当事者、保護者とつくっていければ良い！という勇気をいただきました。
○　点字の絵本などを、初めて体験しました。映画視聴アプリも初めて試しました。障がい者の立場に沿ったツールが日々進化していることに感心しました。
●　行政や関係団体等は今後も取組を進めていくと思うが、一般の方にこの活動への理解や協力をどのように広めていくか、理解してもらえるかが課題だと思う。
●　県内の取組を紹介する掲示物は、印刷サイズが小さく、間隔を開けずに展示されていたので見づらかった。体験コーナーもインパクトが弱かったように思う。
●　フラットな会場でステージも低くく、後方から登壇者やモニターがあまり見えなかった。



Ⅲ　成果と課題

1　成果

○　コンソーシアム連携協議会の意見を参考に、会場や講演などを企画した。駅から近い会場や、映画と講演の組み合わせたプログラムが好評だった。映画に興味をもった方の参加など、成果が得られた。
○　手話通訳だけでなく、要約筆記による情報保障も加えたことで、聴覚障がいのある方も参加しやすい環境を整えることができた。聴覚障がいのある方々の参加も増えた。
○　空席の目立つことが予想される大きな会場で開催せずに、定員１２０名とした会場設営により、登壇者と参加者の距離の近い、温かい雰囲気で開催することができた。

2　課題

○　講演が長引いたために、実践発表後の質疑応答ができず、また、シンポジウムで予定していた内容すべてを議論することができなかった。すべての登壇者や関係者に、講演時間を事前に連絡するだけでなく、当日の会場でリハーサルを行う際に、合図をしっかり確認すべきだった。
○　シンポジウムで議論を深めることが必要である。会場の参加者から、意見をもらうなど、司会者との事前打ち合わせで確認する。
○　参加するだけのイベントではなく、来場者が体験し考える機会を提供するために展示や体験コーナーを設けた。見やすい掲示や、触れてみたい・体験してみたい体験コーナーの在り方などの検討が足りなかった。

チラシ表面

日本のひなた宮崎県
令和６年度九州沖縄ブロック（宮崎県）
共に学び、生きる共生社会コンファレンス
ひなたのつどい 2024
～ 誰にでも開かれた学びの場を広げるために～
障がいの有無に関わらず、誰もが共に学び、共に生きる共生社会の実現に向けて、障がい者の生涯を通じた学びを推進する輪が広がっています。
忍足さんの講演や県内の関係者による実践発表、シンポジウムなどをとおして、一緒に共生社会について考えてみませんか。
参加無料
（要事前申込）
手話通訳・要約筆記あります
令和7年 1月18日（土） 13:00~16:00
（12:00 開場・電子書籍体験）
会場 KITENビル 8階
コンベンションホール 大会議室
宮崎市錦町1番10号 TEL.0985-78-5810
参加者 会場参加：定員120名
どなたでも参加できます
オンラインでも参加できる
ハイブリッド開催
いずれも事前申込みをお願いします
申込締切 1月13日（月・祝）
9:50~ 無料鑑賞会
映画「ぼくが生きてる、ふたつの世界」
会場参加者の特典
特典1
特典2
13:00~ オープニング 文部科学省による事業説明 他
13:25~ 講 演
ろう者の俳優を通して伝えたいこと
～分け隔てなく誰にでも優しいコミュニケーションを～
忍足亜希子さんは、映画「アイ・ラヴ・ユー」の主演でデビューを果たした、耳の聞こえない俳優です。デビュー作で毎日映画コンクール新人賞を受賞し、その後も舞台や映画で幅広く活躍。手話の普及に尽力し、表現者として可能性を広げる活動を続け、夢を持つ全ての人々に勇気を与えています。今回、映画「ぼくが生きてる、ふたつの世界」で主演の吉沢亮さんの母親役を演じられ、話題となりました。
俳優 忍足 亜希子氏
主催 宮崎県教育委員会 文部科学省

チラシ裏面

14:15～ 県内団体紹介（動画）

宮崎わたぼうし会（宮崎市）
石原書道教室（都城市）
新富音声訳グループ「たんぽぽ」（新富町）
みやざき☆フェニクサーズバレーボールクラブ（都城市：男性、延岡市：女性）
コーラスグループ ハッピーハミング（宮崎市）
ヴィアマテラス宮崎 エスペレーラ（新富町）
延岡手話サークル わかあゆ（延岡市）

14:25～ 実践発表

＼県全体の事業説明／
宮崎県教育庁生涯学習課
宮崎県内で行われている公民館モデルや各種活動などを紹介します。

＼公民館モデル／
日向市生涯学習課
日向市中央公民館で実施した生涯学習講座「いろいろ」の取組を発表します。

＼取組推進校／
宮崎県立清武せいりゅう支援学校
取組推進校として、NPO法人と協働し実施した授業について発表します。

15:05～ シンポジウム

誰にでも開かれた学びの場を広げるために

登壇者
俳優 忍足 亜希子氏
日向市生涯学習課 長友 俊介氏
宮崎県立視覚障害者センター 鶴 大輔氏
五ヶ瀬中等教育学校生徒 阿萬 暖々果（のの）氏

総合司会
シンガーソングライター 真北 聖子氏

会場内展示

● 県内市町村教育委員会等の取組　● 読書バリアフリーの紹介　● 文部科学大臣表彰団体　等

お申込み方法 WEBフォーム・ファックス・電話のいずれかよりお申込みください。

申込締切 1月13日（月・祝）

●右記の2次元コードを読み込んで、必要事項を入力する。
●下記の「FAX申込用紙」に必要事項を記入して、FAXで送付する。
※会場定員120名に達したら、会場参加の申込は締め切ります。

お問合わせ先
株式会社AVC放送開発「ひなたのつどい」事務局
TEL:0985-51-9703
宮崎県教育庁生涯学習課 生涯学習推進班
TEL:0985-26-7244

ひなたのつどい2024 FAX申込用紙 ファックス 0985-53-8922（AVC放送開発）

フリガナ		参加者の区分	□障がい当事者・家族　□福祉行政関係者 □障がい者団体・支援団体関係者　□教育（学校等）関係者 □福祉団体・福祉事業所関係者　□学生（児童生徒含む） □企業関係者　□ボランティア団体 □教育行政関係者　□その他（　）
氏　名			
所属先		参加方法	□会場　□オンライン
連絡先	電話番号	メールアドレス	
当日は手話通訳、要約筆記（モニター）を行う予定です。その他の配慮が必要な場合はお知らせください。			
参加方法で「会場」をご選択いただいた方	サイン会・写真撮影会の参加（抽選で5名様）□希望する　□希望しない 映画「ぼくが生きてる、ふたつの世界」無料鑑賞会への参加　□希望する　□希望しない		

※お申込みいただいた個人情報はこの大会の運営目的にのみ利用いたします。

2　民間放送局による特別番組・啓発ＣＭの制作放送報告

1　広報内容

特別番組と啓発ＣＭの制作放送

2　期日

(1)　特別番組の放送日

令和６年 12 月 15 日(日)　午後４時 55 分から午後５時 25 分まで　30 分間

(2)　啓発ＣＭ

令和６年 11 月 30 日(土)から令和６年 12 月 14 日(土)までの 15 日間、全 45 本

3　業務委託先

株式会社テレビ宮崎

4　出演者　　※　啓発ＣＭは、特別番組と同じ出演者

- ○　株式会社テレビ宮崎アナウンサー　柳田　哲史　氏　＜ナビゲーター＞
- ○　宮崎県教育委員会教育長　黒木　淳一郎　＜ナビゲーター＞
- ○　県立看護大学の公開講座の参加者、学生ボランティア、運営スタッフ
- ○　都城市教育委員会生涯学習課の講座の参加者、ボランティア、スタッフ
- ○　ヴィアマテラス宮崎エスペレーラの参加者、スタッフ、家族
- ○　視覚障がい者コーラスグループハッピーハミングのメンバー、指導者、介助スタッフ
- ○　旭化成アビリティの社員
- ○　延岡手話サークルわかあゆの受講者、指導者

5　特別番組の内容

(1)　オープニング

(2)　宮崎県立看護大学の公開講座「一緒にやってみよう in 看護大学」の紹介

(3)　都城市教育委員会生涯学習課の講座「防災対策体験教室」の紹介

(4)　ヴィアマテラス宮崎エスペレーラの紹介

(5)　視覚障がい者コーラスグループハッピーハミングの紹介

(6)　旭化成アビリティで働く障がい当事者の様子を紹介

(7)　延岡手話サークルわかあゆで、手話を学ぶ障がい当事者の様子を紹介

(8)　クロージング

6　特別番組の様子

7　視聴者より（アンケート）

○　生涯学習に参加する側と開催する側、両方の視点で構成されており幅広い視点で考えることができてよかった。学校、地域社会の様々な取組を知ることができてよい。

○　同じ会社の一緒の部署の社員が放映されると聞いて、番組を視聴しました。素晴らしい番組だと思いました。

○　この３年の番組によって、「共生社会」の言葉が各地に広がり、取り組む年齢層や内容の幅が広がって、誰もが自分のこととして考え取り組んでいる様子が伝わってきた。今年の放送は、特に、各地の取組にズームアップして、当日の様子だけでなく、当日までの人と人とのかかわり合いが見え、さらに、現地でのインタビューによって、取り組む人の思いも伝わる番組だった。中学生が「自分が、何ができるか考えるいいきっかけになった」と答える表情から、実際

に取り組んだ実感や、取り組んだからこそ感じた気づきが生まれることが分かった。旭化成アビリティの藤田さんの言葉「一度は失ったものを、障がい者スポーツとしてもう一度出会えた。」から、学びは新しいものを身に付けることや、新しい情報を得る事だけでなく、自らが生き生きと暮らすための要素であり、好きな何かや誰かと繋がる機会なのかもしれないと思いました。頑張らなくても日常の暮らしのあちこちに気軽に繋がる機会や場所を、気軽に作っていきたいと思います。

○　共生社会へ向けた県内の様々な取組を知ることができました。特に、学生達が障がいのある当事者のために調べて、考えて、行動している姿が印象的でした。私自身も障がい者なのですが、わかり合おうとしてくれる、知ろうとしてくれる思いがうれしく感じます。障がいがあるということを特別にしない社会になってくれることを願います。

○　本県での共生社会に関する取組が、どのような社会や取組を指すのかがよく分かる番組でした。また、自分の住んでいる県の取組を知ることで身近に感じることができてよかったです。特に、共生社会の実現を目指した看護大学の公開講座では、学生が主となって障がい者と一緒にイベントを企画運営し作り上げていっていましたが、様々な障がいについて知ったり、障がい者の立場で物事を考える力を養ったり、障がい者の方と触れ合ったりして、学生が社会に出たときに役立つ経験ができたのではないかと思いました。また、サッカーや合唱をいきいきと楽しまれている姿を拝見して、障がいのある人の生涯学習の大切さやそれを育む共生社会について改めて考えさせられました。自分の生涯学習についても考えるきっかけになりました。

○　工夫次第で、自分達ができる「障がい理解促進」、「障がいの有無に関係なく共生社会」に向けてどう行動するかのヒントになる良い番組だと思います。サッカーを通じて仲間同士が切磋琢磨している場面と、親と一緒に居ないところで活動することを保護者の立場からお話しされている場面も印象的でした。

○　誰もが一緒になって共に学ぶ姿が印象的でした。特に、多くの方が参加し共に楽しむためのイベントを企画していた看護大の取組は共感できました。学生が実際に障がいのある方々にゲームなどを実際に試してもらい、気をつける点などを伺い、意見を反映して改善していました。準備段階から関係機関等と連携し、共に考えわかり合うことができており、障がいに関わらず共に楽しむことができる工夫をされていることが分かりました。都城市の防災体験教室では、避難所の運営を行うことで必要なものが何かを把握されており、今後の準備につながると思いました。避難所の運営だけでなく、利用する方もこのような経験を通して、実際の災害時の落ち着いた対応につながり、多くの人がストレスを軽減できるのではないかと思いました。また、企業等で働きながら、仲間と生涯学習として学び続ける方々や趣味を楽しむ例が複数ありました。障がいのある方が社会の中で多くの人々と関わりながら生き生きと過ごす姿が印象に残りました。これからの共生社会を目指した生涯学習の在り方を考えるきっかけとなる素晴らしい番組でした。

８　アーカイブ配信

テレビでの放送後に、YouTube「宮崎県教育ネットひむかチャンネル」にて、アーカイブ配信としている。宮崎県教育委員会生涯学習課ホームページでも紹介している。
「みやざき学び応援ネット」で紹介している。

みやざき学び応援ネット
新生涯学習総合情報提供システム
https://www.sun.pref.miyazaki.lg.jp/

「つながる」ＵＲＬ

９　成果と課題

(1)　成果

①　様々な障がい者の学びの実例を紹介することで、県民が具体的な取り組みを知る機会を提供できた。

②　番組を通して、障がい当事者の想いや体験を共有することができた。働くことと学ぶ楽しみが生活の充実につながることを示すことができた。

③　番組全体を通して、共生社会の実現を目指す意義を発信し、障がいの有無に関わらず、誰もが共に学び合う大切さを伝えた。

(2)　課題

①　より多くの人に届ける工夫が必要である。番組の認知度を高めるために、放送前の告知など工夫が求められる。

②　障がい当事者が参加できる活動や団体の情報を分かりやすく整理する必要がある。どこで学べるのか、参加条件は何かなど、具体的な情報が不足している。

③　共生社会の実現を目指す継続的な取組として、より強化する必要がある。今回の放送で終わらず、これまでの実績を踏まえて、継続的な情報発信が大切である。

3　ホームページでの情報提供

県教育庁生涯学習課ホームページ「みやざき学び応援ネット」に、本事業の情報を掲載するページを設け、協議会の記録や特別番組のアーカイブ動画、コンファレンスの様子などの情報を掲載した。

また、県内各地で行われている生涯学習に関する情報については、同ホームページの更なる活用を検討している。

＜メモ＞

Ⅴ　読書バリアフリー法に関連する取組

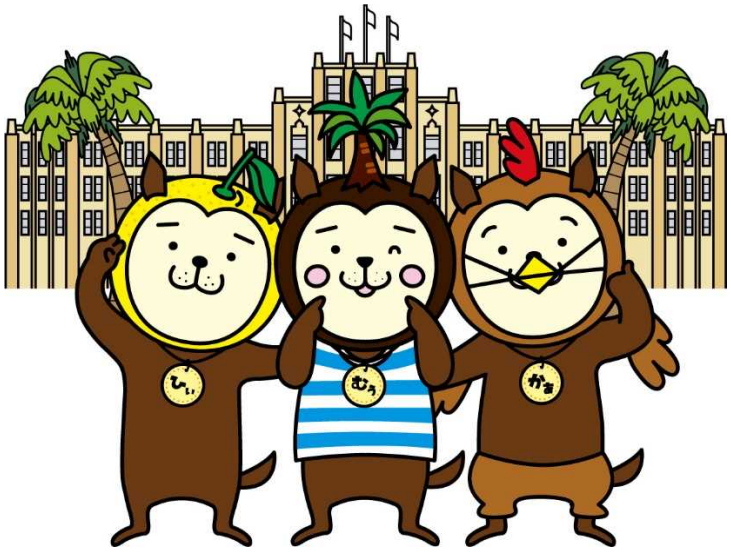
みやざき
共生社会のまなび

1　公立図書館職員等スキルアップ研修会（県立図書館）

目的	「読書県みやざき」を支える人材を育成するため、図書館（室）のニーズに応じた専門研修を実施し、図書館職員の資質向上を図る。	
名称	政策研修 「公共図書館の在り方と経営戦略について」	専門研修（障がい者サービス） 「図書館における読書バリアフリー推進について」
日時	令和６年８月１９日（月） 午後１時から午後３時まで	令和６年１２月９日（月） 午前 10 時 30 分から午後２時 30 分まで
対象	公共図書館･室及び公共図書館等において、館長ほか管理的立場にある職員、図書館未設置自治体の社会教育行政所管課長等	公共図書館･公民館図書室職員、 県立学校の司書教諭･学校司書又は学校図書館業務担当者等
会場	県立図書館　２階研修ホール （対面とオンラインのハイブリッド開催）	県立図書館　２階研修ホール （対面開催）
内容	講義　「21 世紀型公共図書館と経営の考え方」 講師：小泉　公乃　氏 （国立大学法人筑波大学 図書館情報メディア系 准教授）	講　義　「障害者サービスの動向と資料のさがし方･ＰＲについて」 講師：返田　玲子　氏 （調布市立図書館／日本図書館協会障害者サービス委員会） 演習Ⅰ　読書バリアフリーに対応した資料の紹介 資料再生機器等の操作体験 演習Ⅱ　館内における利用者の応対について （ロールプレイング） 講師：大賀 千穂美 氏、鶴 大輔 氏 （宮崎県視覚障害者福祉協会／宮崎県立視覚障害者センター）
人数	３５名	５５名
参加者の感想	○　知りたい情報、聞きたかった内容が適度に散りばめられ、わかりやすかった。行政の担当者や政策決定権を持つ一般行政役職者などもためになるものだった。 ○　概念や後半の北欧の事例、質疑に対する回答までわかりやすいものだった。目の前のことに振り回されがちではあるけれども、戦略をもって、未来の実現に向けて取り組むことが、館長として大事であり、それを首長にも理解してもらうことが必要だと感じた。	○　法制度や他の図書館の具体的な事例などについて解説があり参考になった。当館でもより良いサービスにつなげられるよう改善し、読書バリアフリーを推進していきたい。 ○　視覚障害者の方の応対の研修を初めて受講した。図書館内での案内について、当事者の方の意見を直接聞くことができただけでも、聞く前とは意識が変わった。
成果課題	○　どちらの研修においても、満足度は８割を超えている。今年度から初めて管理者向けの研修を実施したが、多くの図書館・室から参加があり、読書県みやざきの実現のためには、次年度以降も引き続き実施していく必要性を参加者の感想から感じた。 ●　より実践に近い、即実践に移しやすい内容を求める声が参加者から多く寄せられる。研修テーマや対象に応じた、より各館・室の運営に反映できるような内容を検討していく。	

2　読書サポータースキルアップ講習会

Ⅵ　ひなたのつどい 2024（共生社会コンファレンス）の掲示物



みやざき
共生社会のまなび

取組概要　地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築

宮崎県（所在地：宮崎県）

事業名　みやざきの共生社会を目指す生涯学習推進事業

事業の趣旨・目的

障がいの有無に関わらず、「誰もが、共に学び、生きる共生社会」の実現に向けて、以下のことに取り組む。
- 各地区の今後の取組を協議するための「コンソーシアムの形成」
- 公民館等の学習プログラムや大学公開講座、取組推進校での「実践研究」
- コンファレンスの実施や特別番組の放送等による「普及啓発・情報提供」

事業実施体制・連携先

【コンソーシアム連携協議会構成員】
大学、専修学校、特別支援学校、PTA、社会福祉協議会、自立支援協議会、企業、当事者団体、家族団体、支援団体、市町村教委、県障がい福祉課
【コンソーシアム連携協議会の特色】
今後の事業展開を見据え、県内を３地区に分けて地区別に協議を実施

事業内容

【コンソーシアムの形成】
○ ７月、８月、10月、１月（共生コンファレンス）、２月に連携協議会
○ 市町村公民館講座等担当者会
【実践研究】
○ 公民館や社会教育施設等での生涯学習プログラムの実施
　延岡市、都城市、日向市、宮崎県青島青少年自然の家
○ 大学の専門性を生かした公開講座の実施
　宮崎県立看護大学
○ 学校卒業後の生涯学習への意欲向上を図る取組
　宮崎県立清武せいりゅう支援学校、宮崎県立赤江まつばら支援学校
【普及啓発・情報提供】
○ 一般県民も対象とした「ひなたのつどい(共生コンファレンス)」の開催
○ 民間放送局による特別番組・啓発ＣＭの制作放送などの広報周知・啓発
【読書バリアフリー法に関連する取組】
○ 図書館職員や学校職員、読書ボランティアのスキルアップ研修会の実施

今年度の取組状況

7月	・第1回コンソーシアム連携協議会（7.18）
8月	・図書館職員等スキルアップ研修（8.19） ・第2回コンソーシアム連携協議会（8.24）
9月	・再委託先（自治体・社会教育施設・大学等）による取組
10月	・特別支援学校研究指定校による取組 ・第3回コンソーシアム連携協議会（10.30） ・市町村公民館講座等担当者会（10.30）
11月	・再委託先（自治体・社会教育施設・大学等）による取組
12月	・特別番組と啓発ＣＭの放送（※障害者週間） ・図書館職員等スキルアップ研修（12.9）
1月	・「ひなたのつどい2024」コンファレンスの開催（1.18）
2月	・読書サポータースキルアップ講習会（2.1） ・第4回コンソーシアム連携協議会（2.5）

市町村公民館講座等担当者会

延岡市の講座「スノードーム」

１２月に放送した特別番組

その他研究の詳細など

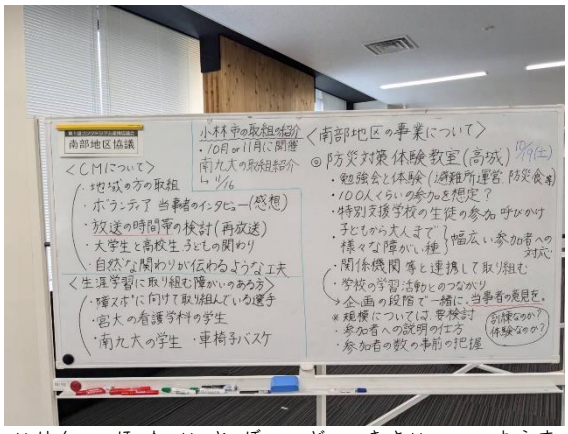
宮崎県教育庁生涯学習課HP「みやざき学び応援ネット」
みやざき学び応援ネット　新生涯学習総合情報提供システム
https://www.sun.pref.miyazaki.lg.jp

コンソーシアムの形成

宮崎県教育庁生涯学習課 コンソーシアム連携協議会

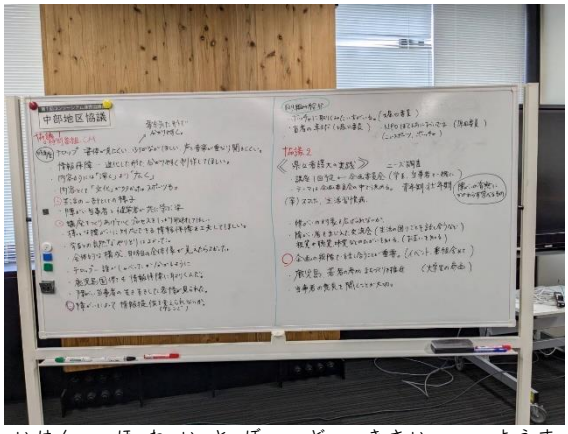
宮崎県内で「障がい者の生涯学習」を推進するために、特別支援学校や当事者団体、自立支援協議会などの関係者が、県央、県南、県北の３地区に分かれて、県全体での取組や各地区での事業展開などを話し合っています。特別支援学校や県立聴覚障害者センターなどを会場としています。

第１回会議の様子



意見をホワイトボードに記載した様子

第１回会議の様子



意見をホワイトボードに記載した様子

委員が特別支援学校を見学する様子

第２回会議の様子

宮崎県教育庁生涯学習課 市町村公民館講座等担当者会

市町村公民館や県社会教育施設などで講座やイベントを企画運営している担当者を対象に、合理的配慮や情報保障に関する研修を県立聴覚障害者センターで行いました。神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授　津田 英二 氏による講義や県障がい福祉課による説明、グループ協議を行いました。

講義の様子

講義の様子

講義の様子

協議の様子

協議の様子

協議の様子

「防災対策体験教室」

都城市教育委員会生涯学習課

障がい者を含む災害時の避難を想定した体験教室を、高城生涯学習センターで開催しました。障がいのある方々が、民生児童委員やボランティア連絡協議会などのボランティアと交流しながら、必要な支援を学ぶとともに、災害時のそれぞれの役割、行動を考える機会となりました。

ボランティアの高校生などへの説明

福祉施設職員による説明

防災士による説明

車椅子避難を補助する器具の説明

車椅子避難補助具を使った体験活動

非常備蓄食の試食

延岡市教育委員会社会教育課 第１～２回「かねのね」

延岡市では、学校卒業後の障がいのある人の生涯にわたる学びを充実させていく取組を通して「誰もが、共に学び、生きる共生社会」の実現を目指しています。令和５年度より、県立延岡しろやま支援学校をはじめとした関係機関と連携し、生涯学習講座「かねのね」を開催しています。

第１回の様子（葉っぱのスタンプ）

第１回の様子（太極拳）

第２回の様子（メイク）

第２回の様子（スノードーム）

第２回の様子（フラダンス）

第２回の様子（楽しい運動）

日向市教育委員会生涯学習課 第１～２回「いろいろ」

共生社会の実現を目指す生涯学習講座「いろいろ」を日向市の中央公民館で開催しました。障がいのある・なしに関係なく参加できる講座として、第１回は「革の小物づくり教室」、「ズンバ教室」、第２回は「包丁を使わない料理教室」、「ヨーガ教室」を実施しました。次年度も開催予定です。

第１回の様子（皮の小物づくり）

第１回の様子（皮の小物づくり）

第１回の様子（皮の小物づくり）

第２回（包丁を使わない料理教室）

第２回（包丁を使わない料理教室）

第２回（ヨーガ教室）

宮崎県青島青少年自然の家ひなたこどもフェスティバル

約３，０００名近くが参加した初開催のイベントにおいて、合理的配慮や情報保障を知るきっかけとするために、宮崎市聴覚障害者協会と宮崎手話サークルが連携して、手話体験ブースを運営しました。日常のあいさつや名前を表す指文字など簡単な手話を、親子で楽しみながら学ぶ様子がみられました。

自分の名前を指文字で表す様子

手話体験ブースの様子

協会の会員とボランティアの中学生

多くの方が体験している様子

子供達へていねいに説明する様子

宮崎県立看護大学 一緒にやってみようin 看護大

看護大学が「学び」と「出会い」を生む場となり、障がいの有無に関わらず、誰もがその人らしく健康に暮らせる地域社会を目指して公開講座を実施しました。今回は、学生が視覚障害者センターなどで事前調査を行い、障がいのある方々と一緒にニュースポーツ、ヨガ体験などを企画運営しました。

企画会議の様子

企画会議の様子

講座当日の様子（ニュースポーツ）

講座当日の様子（カフェコーナー）

講座当日の様子（座って行うヨガ）

講座当日の様子（座って行うヨガ）

宮崎県立清武せいりゅう支援学校（肢体不自由）

宮崎県立赤江まつばら支援学校（病弱）

特別支援学校の児童生徒が学校卒業後も学ぶ場があることを知るために、在学中に社会教育や生涯学習を体験する授業などを取組推進校で行っています。

今年度の特別支援学校取組推進校として、県立清武せいりゅう支援学校は、高等部・中学部の生徒を対象に、ボッチャを通して、初めて会うボランティアへ思いなど伝える体験活動を「障害者自立応援センターＹＡＨ！ＤＯみやざき」との協働で実施しました。県立赤江まつばら支援学校でも高等部の生徒を対象に、県内の企業で働きながら陸上競技（車椅子競技）に取り組まれている障がい当事者による講話を実施しました。

清武せいりゅう支援学校での授業

清武せいりゅう支援学校での授業

赤江まつばら支援学校での授業

赤江まつばら支援学校での授業

宮崎県教育庁生涯学習課 特別番組「つながる2024」

障がいのある方々が生涯学習に取り組む様子を紹介する特別番組「つながる２０２４」をＵＭＫテレビ宮崎が制作しました。県立看護大学で講座を企画実施するまでの様子、コーラスを楽しむ方々、旭化成アビリティ延岡で働きながら生涯学習・スポーツを楽しむ方々の様子を放送しました。

取材の様子

取材の様子

取材の様子

取材の様子

特別番組のサムネイル画像

特別番組の二次元コード

宮崎県立図書館 図書館職員等スキルアップ研修

図書館における読書バリアフリーを推進するため、公立図書館職員や学校図書館職員等を対象とした研修を実施しました。「宮崎県読書活動推進計画」にある読書バリアフリー法に関する人材育成の一環として行われたものです。資料再生機器の利用体験や館内での利用者対応などの研修を行いました。

研修の様子

研修の様子

県生涯学習課 読書サポータースキルアップ講習

宮崎県内で読書バリアフリーの取組を推進するため、小学校で読み聞かせや図書館でボランティアなどを行っている読書サポーターを対象としたスキルアップ講習会を実施します。期日は２月１日(土)、会場は延岡市社会教育センターです。申込期限は、１月２８日(土)です。皆様の参加をお待ちしています。

参加申込フォームの二次元コード

「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰

文部科学省では、平成２９年から、障がいのある方の生涯学習を支える活動について、他の模範と認められるものに対し、その功績を称える文部科学大臣表彰を行っています。毎年、宮崎県の団体も表彰されています。

年度	市町村名	被表彰団体	主な対象
H２９	串間市	串間市音声訳ボランティア「カナリヤ会」	視覚障害
H３０	日南市	輝きエイサーサークル	知的障害
R１	小林市	壹岐　博彦 （功労者表彰：霧島おむすび自然学校を通じた自然体験活動の実践）	知的障害 発達障害
R３	えびの市	やまびこ	視覚障害
R４	新富町	新富音声訳グループ「たんぽぽ」	視覚障害
	宮崎市	宮崎大学ボランティアサークル「びいだま」	肢体不自由児
R５	都城市	子どもと家族・関係者の集まり 「ポン太クラブ」	全て
	えびの市	手話サークルえびの会	聴覚障害
R６	宮崎市	宮崎手話サークル「いもっこ」	手話講座受講者 サークル会員 一般市民
	都城市 延岡市	MIYAZAKI☆PHOENIXERS バレーボールクラブ （みやざきSUPER☆PHOENIX VC（男） ＆宮崎たいよう♡ふぇにっくすＶＣ（女））	知的障害

令和６年度「みやざきの共生社会を目指す生涯学習推進事業」
実施報告書

宮崎県教育庁生涯学習課
〒880－8502　宮崎県宮崎市橘通東１丁目９番10号
TEL　0985－26－7244

みやざき学び応援ネット
新生涯学習総合情報提供システム

https://www.sun.pref.miyazaki.lg.jp/

みやざき
共生社会のまなび